□受驗界編輯局編著□

高等豫備試驗

標準英語の解釋

□東京受驗界社發行□

大正
14. 10. 8
內交

323-653

——例　言——

1. 高等試驗豫備試驗の科目は「論文」と「語學」との二科である。而してその語學は英,佛,獨語を主とし，その程度は大學豫科（高等學校）卒業程度を以て行はれる規定になつて居るが，その實際問題を通覽するに，必ずしもその程度を一貫して居るとは限られない。

2. 今その語學中最も多數の受驗者を出しつゝある英語科に於ても，即ち此の豫備試驗の實際を專攻し標準とする練習參考書籍の皆無なるが爲に，本社は之等受驗者諸君の練習資料として，昨春以來本社發行の『受驗界』誌上に於て特に開設せる語學欄にその試驗を標準とする練習雜題解說を試みて博く歡迎を受けつゝある。乃ち今その最近號に至る全部を整理し一卷としたものが本編である。

3. 從て本編の設問は專ら實際問題の傾向に鑑み，之に最も適切なる時事文例を精選し，その標準に過りなからんことを期し，殊に之が練習に各々回數を分つたのは，又その實際試驗の課題分量と時間範圍との考察練習に便した點にある。

4. 以上の諸點に基き本編は實力涵養を主眼とする見地から，必ずしも問題の多きを强ゐず，專らその問題の充分なる咀嚼に資すべく註解に多くを努めた。

5. 此の豫備試驗に對する受驗準備法や，實際試驗に對する試驗委員の講評等は例號の『受驗界』誌上に於て之を發表しつゝある所であるが，更に之等を系統的に編述し，本社近刊の『豫備試驗全科答案集』に付して一卷とし，更に諸君の參考に供することゝする。

6. 又本編の講述が冒頭揭記の程度であるが爲めに，固より之が講讀練習には相當語學上に豫備知識あることを要する。乃ち此の豫備知識の學習の爲めには更に機會を得て著述を試み，本書への階梯を作ることゝしやう。

7. 玆に斷はつて置かればならぬことは，前述したやうに本編が揭載誌上遂號の推移に伴ひ，組版體裁の上に一貫を缺いで居ることであるが，讀者は幸に之を諒せられたい。

大正十四年八月

編者記す

第一回練習問題解說

本書は主として高等豫備試驗程度の時事文題其他を假想試驗問題として之が解說を試みることとした。若しも諸君が本欄の解說に對して疑義を生ぜらるれた場合には。どうか質問をして戴きたいそれには欣んでお答しやう。そして諸君と共に本欄の研究え步を進めて見たいと思ふ。

時事英文解說

(1) The silent, if not self-avowing, admires of Lenin, the late dictator of Russia, are much larger in number than may be imagined, mainly because he was not fully understood, except as a figure of wonderful power. Nor is it by any means certain that the world knows him for what he really was, now that he is gone. Perhaps it will be generations before

full justice is done him one way or other.

（2） これと云つて六ケ敷い idiom も譯語もないけれど、文脈がかなり混み入つてゐるから、よく幾度も繰り返して讀んで見て、大體の意味を握むことが大切である。殊に時事英文などは、さまで深い意味などのあるべき譯のものでないから、先づ最初に“此文は何を言つてゐるのか„を了解してから、本當の譯に取りかかるがよいかと思はれる。

先づ單語及び idiom を取り出して見る。

self-avowing……to avow は“公言する„“明言する„と云ふ字。noun は avowal, adjective は avowable である。

If not ……if には普通 subjunctive に用ひられる“若し……ならば„と云ふ譯以外に種々な意味がある。こんなのは是非はつきりと記憶し了解して置かねばならぬ。その用例の幾つかを書いて見よう。

（1） as if……“かの如くに„と譯すのであつて、その次に來る動詞は過去（be 動詞ならば were）である

he jumps up as if he were a ball

（彼は毬ででもあるかの樣に飛び上る）

（2） if……as if と同じく、矢張り現在の事實の反對を想像して云ふ時。この時も動詞は as if の時と同じ。その意味は "…たいなア" と憧れ望む心である。

If I were a bird！（鳥だつたらなア）

（3） if…… "かどうか" すなはち weather と同じ意味に用ひられる。

Try if you can translate this sentense.

（お前この文章が譯せるか如何か、やつて御覽）

（4） if……even if（よしんば……するとも）の意味にも用ひられる。

If he is immoral, he is at any rate a man of great ability（彼は、よし不品行ではあつても、とにかく非常なやり手だ）

（5） if が though と同じ意味に用ひられる事もある。（as if を as though と書いても良い）。if が though と同じ意味になるのは、つまり even if の一つの譯し方と見てもよい。結局は同じ意味である本文の

if not self-avowing の if はこの場合の if であるから、though（…だけれども）の意味。

By any means……如何にしても、どんな事がおつ

ても、と譯すべき言葉。但し此文では nor があるから打消しになつて、by no means (斷じて……ない) と同じ意味になる。

for……for what と續いてゐるので、よく英會話などに使ふ for what ? (何故：どうして！) などと同じ意味に考へると大變である。この for は know の方について know him for と云ふ文章である。よくこんな點を注意しないと、思はぬ間違に陷るから、前置詞の用法は其場合場合で充分用心せねばならぬ。

Justice is done……justice は普通の意味が "正義" であるが、例へば to do him justice, he is a good fellow の場合の如く、"公平に云へば" の意味に用ひられるから注意すべきであらう。本文の如きも "公平に判斷する" と云ふ意味の一例である。

One way or other……副動詞であつて "何かの方法" での意味。I will do it one way or other. (私は何かの方法でそれをやらう)。

答　　案

ロシヤ執政官故レニン氏を、自ら公言しなくとも、

暗默のうちに賞讃してゐる人々は、想像される以上に多數である。けだし主として、彼が驚くべき力の人として以外にはよく理解されてゐなかつたが爲である。また、彼すでに逝きし今日、彼が眞に何者であつたかを世界が知ると云ふのは、決して確實なことでない。おそらくは、何等かの道で、彼が全く公平に判斷されるのは、幾時代も後であらう。(直譯すれば……公平に判斷される前に、幾時代かあるであらう。

(2) Penalties for opinion, or at least for its expression, still exist by law; and their enforcement is not, even in these times, so unexampled as to make it at all incredible that they may some day be revived in full force.

これは J. S. Mill の On liberty の中からの一文であるが、豫備試驗の英文和譯の方は、むしろ時事文と云ふよりも、議論文の方が多いようだから、玆にこうした文章を選んで來たのである。多少込み入つた文體だから、よく注意して譯さねばならぬ。

この文章の一番誤り易い所は

to make it at all incredible that they may……の

あたりであろう。that……may は普通に in order that……may の譯と同じく“するに”と譯されるのだから、不用意に此文章の樣なのにぶつつかると、いつもの通りに譯して失敗する事がある。こうした事は、何と云つても多く英文に親しみ、おのづから呼吸を呑み込むようにするのが大切である。この場合の that は that they may とつづくのでなく、to make it の it を説明してゐる。

此文は單語として別に六ケ敷いのはないが、かなり譯するとなると面倒だから、よく注意して最も日本文らしい譯文を作り上げねばならない。

本文の難所は、is not so exampled as to make it incredible の邊であらう。今文章を簡單に書き直して見て、妥當な直譯を考へて見よう。

A is not so unexampled as to make B at all incredible。

unexampled は“未曾有、類ない”と云ふ意味の形容詞、incredible は“信じられぬ、怪しき”などの意味を有する形容詞、だから直譯すれば“A は B を全く信じがたくするほどには未曾有でない。”となる。こ

の譯では、前の方を“でない”と打消し、後の方を“くする”と肯定する。之は原文には忠實な譯なのだけれど、日本文としては如何であらう。日本文は英文の樣に、後の方から持ち上げる樣に譯するよりは、むしろ前の方から譯して行つた方が良い樣に思はれる。この際には so…as は so…that と同じ樣に譯せば良い。“A は甚だ未曾有ではないから、B を全然信じがたくはしない”となる。この何れを採るかは、その時々で一長一短あらう。たゞ後の方で注意せねばならんのは、前の譯では“信じがたくする”と肯定されたのを後の方では“信じがたくはしない”と否定的に云つてゐる事である。

（註）（1） 意見に對する、或は少くともその公表に對する刑罰は、今尙ほ法律によつて存在してゐる。そして彼等（刑罰）の强制は、現時に於てすらも、彼等が他日、力旺んに復興するかとも知れないと云ふ事を、全然信じがたくするほどには稀（未曾有）でない

（2） 意見に對する、或は少くとも、その發表に對する刑罰は今尙ほ法律上存在してゐる。そして、彼等の强制はそんなに稀でないから、他日彼等が旺んに復

與するかも知れないと云ふ事は、全然信じがたい譯ではない。

第一は原文に忠實な譯で、第二は寧ろ意譯である。

時事邦文英譯

一時病危篤を報ぜられた松方公は、今や全く奇蹟的に快方に向ひつつある。これは、啻に經濟界、政治界の喜であるばかりではなく、日本人全體の喜である。公の近親者達の大喜たるや言ふまでもない。

（1） 公……prince である。marquis は侯爵だから混同しない樣に注意。

（2） 危篤……serious。電文の "祖危篤直ぐ歸れ" は grandfather seriously ill return immediately. と譯す。

（3） 全く奇蹟的は……miraculously indeed である。名詞は miracle で形容詞副詞は miraculous (ly) となる。cle と cul の變化に氣をつけねばならぬ。

（4） 快方に向ひつつある……is recovering は直譯に過ぎて面白くない。"しつつある" が現在の動作等を現す時にはそれでよいが、本文の如く狀態を說明す

る時には普通進行形を用ひない。to be on a fair way to recovery として、その狀態の推移を示すのである。

（5） ただに……のみならず。not only……but ; only の代りに merely でも solely でもよい。

（6） 經濟界、なぞ云ふ時は、economic field とも云へるが、circle を用ひた方が better である。

（7） 日本人全體……the all Japanese は面白くない。Tha Japanese in general が better である。"社會全般の利益" など云ふ時の社會全般も society in general である。注意すべきは、Japanese の前に the と云ふ定冠詞がない時には、それは national language 即ち日本語と云ふ事になるよくある誤あるから、この際特に辯識して欲しい。

（8） 云ふまでもない…れこは通常 to say nothing of (about) を用ひる。その後に來るのは noun 又は gerund である。

（答案） prince Matsukata, who was once reported to be very seriously ill, now is miraculously indeed on a fair way to recovery. This is not only a happy thing for political and economic circles, but for the

political

Japanese in general, to say nothing of the greatest rejoicing of his near relatives.

十二年度高等學校

——入學試驗問題——

國文英譯　　（總點五十）

（1）私は毎朝早く起き冷水に浴し散歩をしさうして明晰な頭腦と純潔な精神を以て日課に就くことにしてをります。

（2）日々の所得にばかりたよつてゐる勞働者等にとつては貯蓄することはむつかしいに違ひないない併し、唯むつかしいだけで全然不可能ではない

第二回練習問題解說

時事思想問題講演

（1）When we speak of anything as "free", our meaning is not definite unless we can say what it is free from. whatever or whoever is "free" is not subject to some external compulsion, and to be precise we ought to say what this kind of compulsion is, Thus thought is "free when it is free from certain kinds of outward control which are often present. Some of these kinds of control which must be absent it thought is to be "free" are abvious, but others are more subtle and elusive,

--註--

1. Speak of (a person of thing)=（人や物の）事

を云ふ噂する。Speak highly of＝賞讃する。Speak ill of＝惡く言ふ。Speaker＝議長。

2. Unless＝save; except; if not. この文を簡單にParaphraseすれば：—

Our meaning is not definite if we can not say……であるから——

Our meaning is definite is we can say……となつて not……not と not の二つにある—Clause は肯定文に同じい。しかし打消の助詞 not を二つに重ねて使ふことは嫌はれてゐるから、作文上工夫が要る。この調子を呑込んだら解釋上にもはつきりした頭が出來やう。

3. sub′-ject＝臣下；臣民。主題。sub-ject′＝〔動詞，accent に注意〕服從せしむ；征服する。Subject a criminal to torture＝罪人を拷問にかける。Sub′-ject(to the government)〔形容詞〕(政府の) 支配を受けてゐる—Subject to change without notice＝(隨時)無斷變更することあるべし。

4. Compalsion—動詞は Compel′; 形容詞は Compalsory, Compalsory education＝義務教育。

5. To be precise—これに似た字で Precis〔佛語〕は摘要、大意である。類例：—To be brief＝略言すれば。

6. Control＝支配；管理。Food control＝食糧管理

7. Subtle＝精細な；微妙な。

8. Elusive＝elude＝to escape adroitly.—素早く避ける；逸する；の形容詞。それから"正體の捉へ難い"。

譯文には"正體の摑みにくい"はなくともよい。が此處に限つたことはないが、斯んな風に挿入して自分の理解を示しておく心得を持ち合せておくのも惡くはない。

譯　文

"自由"何々をいふ場合、それが何から自由であるかを言へなければ、意味がはつきりしない。事にまれ人にまれ、"自由"なものは或外的强制の下に從屬してゐないのである。なほ正確に言ふならば、この强制とは如何なる種類のものであるかを述べなければならぬ。で、"自由"思想とは往々見られるところのある種の外的支配の絆を脫してゐるものの謂である。思想

を"自由"たらしむるにその不在を必要とするかかる支配のうち或るものは一見明瞭に看取せられるが、精巧且つ朦朧正體の摑みにくいものもある。

（本文はバートランドラッセルの "FREE THOUGHT AND OFFCIAL PROPAGANDA から採つたものである)。

（2） To begin with the most obvious, Thought is not "free when legal penalties are incurred by the holding or not holding of certain opinions, or by giving expression to one's belief or lack of belief on certain matters, Very few countries in the world have as ~~get~~ have not yet th's elementary kind fo feedom, In England, under the Blasphemy laws, it is illegal to express disbelief in the christian relijion, though in practice the law is not in motion against the well-to-do.

—註—

1. To begin with—(何々から) 始める。To start with (a capital of ¥500) ‥ (五百圓の資本で)始める

2. Thought is not "free"……文字通りには—" 加へられるならば、思想は自由でない" である。上の譯

文のやうだと、反譯すれば—No freedom of thought、……であつて、即ち形容詞を名詞にして譯したのである。動詞を名詞にしたり、その反對にしたりすることに習熟するとよい。

序に對譯物譯註物に就いて一言ししておかう。一體大家の對譯物に接するとき、先づ原文を讀み、自分の譯をつけ、それから與へられてある譯文を讀むと、自分の譯文との間に可也の距離のあることを往々見るものである。それはむしろ原文と譯者の譯文との距離のやうに見えることがある。しかし、よくよく頭を捻つてみると、原文と譯文との間には距離はない。ぴつたり當てはまつてゐる。對譯物を讀むと、後には原文の興味が譯文にだけ殘つて、原文は何處へやら逃げ出して仕舞つてゐるといふやうなことを聞く。原文はよく分らない。が譯文を見ると成程と合點するといふ。頭から感心する。いづれも譯文と原文とがぴつたり當てはまつてゐることを意味するまで頭を捻らないからいけないやうである。

2. Incur＝招く、蒙る、

3. Go hold anopinion＝意見を懷抱する持論を持

つてゐる。

4. Few, a few; little, a little の區別は御承知の通り。

5. Illegal=contrary to law; not legal. il は in-regular, in-rational などに於けると同じく、Negative を表はす Romanic Prefit であつて in- に屬する。この下には：—in-frim, il-literate, im-pious などがある。

……it is illegal to express disbelief in christian relijion……は文字通りには—基督教に不信仰を表白するのは違法である。

6. Practice—Theory and practice=理論と實際。

7. Set in motion:—Enforce put in force=施行する。

譯　文

先づ最も分明なもののから擧げて行かう。ある意見を支持し、若しくは支持しないといふ理由で、またはある事柄に對して自己の信仰若しくは不信仰を言ひ表はした廉により、法の制裁が加へられるならば、思想

の自由は無い。世界を見渡したところ、未だこの初歩の自由さへ持つてゐない國が多い。英國では基督敎に不信仰を唱へる者は瀆神罪に問はれる。尤もこの法律は實際に於て有產階級には適用せられないが。

(3) We may say that thought is free when it is exposed to free competition among belief—i. e., when all beleif are able to statetheir case, and no legal or pecuniary advantages or disadvantages attach to beliefs· This is an ideal which, for various reasons, can never be fully attained. But it is possible to approach very much nearer it than we do at present.

—註—

1. Expose＝(人や物を)曝す(殊に風雨に)。when it is exposed to……(自由競爭の舞臺に)突き出されゐるとき。

2. State their case—case＝事情、事件、訴訟事件 A civil case＝民事事件。A criminal case＝刑事事件。state their case＝係爭點を開陳する擧示するが文字通

り。

4. Pecuniary—金錢上の

5. For various reasons.—(To resign one's post) for braeth reasons＝病氣のため 辭任)。

6. Approach＝近づく。(人または物に)接近する。To approach one on the subject＝その同題で(某と)交渉する。

譯　文

思想が信仰間の自由競爭に曝らし出されてゐるとき即ち如何なる信仰も各々その言ふべきところを言ひ、而かも何等法律的若しくは經濟的利益乃至不利益が懷抱する信仰に附隨して來ないとき。思想の自由ありと謂つてよからう。これはいろいろな理由からして充分に達成することの出來ない理想であるはあるが、しかし、將來に於ては現在よりも極めて近いところまでこれに近づきうるであらう。

第三回練習問題解說

(1)　邦文英譯

各國人參加の世界一週飛行が企てられ本月(四月)十七日に桑港を發して五月一日頃に日本に着する豫定である。

邦人の此擧に參加しないことは何人も深く遺憾とする所であらう。日本は飛行の總てに於て尙甚だ劣つて居る。

(2)　英文邦譯

Though doing no wrong to any one, a person may so act as to compel us to judge him, and feel to him, as a fool, or as a being of an inferior order : and since this judgement and feeling are a fact which he would prefer to avoid, it is doing him a sarvice to warn him of it beforhand, as of any other disagreeable consequence to which he exposes himself.

よい成績ではなかつた。本文は有名な英國十八世紀中葉の學者であり思想家であつた John Stuard Mill の "Cen Liberty" から選んだのであるが、mill の文章としては餘り六ケ敷くない方である。然し何分 mill の文章とて、之を達意明快な日本文に書き下すのは多少むづかしいとしても、大體の意味は正確に握めてなくてはならぬ。然るに中には餘程怪しい樣な答案もあつた樣に見受ける。本當に意味の良く通じてゐる答案は僅々五六篇ではないかと思ふ。諸君の今一層の努力を望むや切なるものがある。意味を正確に握むのには矢張り第一文章の綴り結びを文法的に明にし、第二には全體としての意味を論理的に考察するの外はない。第二の方は如何しても多く讀み多く譯して英譯に馴れ親しむより他の手段はないが、兎も角も文法的の正確さだけは、よく研究して何よりも先づ自信をつける樣、希望して已まない。

それで以下特に氣付いた文法解釋の上の誤謬を指摘して御參考に供する事にした。

文章の前半には比較的文法上の誤謬は見受けなかつた。然し中には as a foo' の as を as if の as の樣

に譯して "かの樣に" とした答案もあつた樣だが、此處の場合の as は "として" と譯すのが正しい。as がたゞ一で獨立して居り as…as; as well as, as much 等の樣な idiom になつてゐない時に、その後に noun が來れば、多くの場合に於て "として" の意味にある。無論下例の樣な例外もあるから、よく文意を繰り返し繰り返し調べて明にするのが何よりも大切である。

The villagers rose as one man against the ferocius murderer.

"村の人々はは、この獰惡な人殺に向つて、一齊(宛ら一人でゞもある樣に) 立つた"

In my garden there are many beautiful flowers, as the chrysanthemum, lily and tree peonies.

"私の庭には菊や百合や牡丹などの樣な美しい花が多くさんある"。

また doing wrong to any one を "誰も惡い樣にはしなくとも" と云ふ風に譯してゐる人もあつたが、之も明な誤謬である。doing wrong to any one なのだから "誰に對しても惡い事をしない" と云ふのが本當の意味である。

inferior order を低劣な命令と書いてあつた答案も見たが安心出來ない。order と云へば、たゞ命令とか秩序とだけしか意味を承知してゐないのは英譯上危險である。order 一字で數多の譯のつくことは辭書を一見しても解るのであるから注意が肝要である。よく尠ふして種類の誤解の中に spirit（酒）を sprit（精神）と間違へたり fine（罰金）を f ne（晴天、天氣）等と取り違へたりする。

文章の後半は多少混み入つてゐた故か、殆ど正解してゐる人が尠なかつた。そして其多くは、It is doing him a service の it が何を指してゐるのか、また to warn him it beforhand の it が何かと云ふ事を正確に理解してない結果であるらしく見へた。これは六ケ敷い idiom でも何でもないのであつて、英文に熟練さへすれば、陷るにも陷れない位のものである。たゞ滅多に出て來そうもない變な形の idiom ばかり集めた本のみを研究してゐると、こうした平凡な文脈などに、ぶつかつて却つて狼狽する事になるから此邊は諸君の切に心を用ひらるゝ事を望む。

或人の答案に"……それは其の事、並に結局彼自ら

暴露すべき何か他の面白からぬ結果に就て、彼に警告する務を爲してゐるのである"と云ふのがあつた。こうした種類の答案が他にも數多く見受けられた。これなど明に it が何を指示してゐるかを確定しなかつた一例であろう。It の後方に that とか infinitive が來るならば多くの場合（即ち前文に於ける名詞なり名詞句なりを、その it が明に指してゐるのが解つてゐない場合）には、その it は that または infinitive の先行語となる。此場合の it もそうであつて、it は to warn と云ふ infinitive を指してゐるのである。次の it は前半の全體を含んでゐるものと見て差支へなく、もつと狹く云へば may so act の act 即ち"……する樣に行動する"ことを指してゐる。

beforhand を"…面前で"と譯した人があつた、外の點ではかなり良い樣だつたが、こうした常識的な誤謬は致命傷となる吳々も注意してほしい。

expose himself to を適當に譯してゐる答案は無かつた樣だ。元來の意味は"（危險に）身をさらす"と云ふのであるから"彼に臨んでゐる"とか"彼の出くはす"などと譯してよい。expose に暴露と云ふ意味の

ある事より考へて"彼が自分の恥を他人にさらけ出す"と云ふ様な意味にとつた人もあつた様だが、expose… to which の which は disagreeable consequence であるから誤解してはならぬ。

かなり問題であつたらしいのは as of the disagreeable の as らしい。中には"として"の as に譯したり、and と同じく"且つ、そして"と譯した人もあり、多くの人々は譯さずに略したりしてあつた。然し文法的に對照して考へて見れば to warn of it の of と as of の of とが同じ of である事が解るのだから、自然 as が"同じく、同様に"などと譯さるべきを知り得るのである。

終りに比較的優良と思はれる答案二三篇を掲げて之に短評を加へる事にする。

(1) 人は誰にも他人には害にはならないけれど、我々が已むを得ず其人を愚物か又は賤しき社會の人と判じ感ずる様な振舞をするかも知れぬ。それで此の判斷並びに感じが、その人の避け度い一の事實なる限り、それを豫め警告してやるのは、彼の出會す好ましからぬ結果を知らせてやると同じく其人の爲めになる。(里見君)

譯文としては未だ未だ大に推鑄の餘地がある様だが意味は可成正確に表れてゐる。たゞ何れの答案もそうであつたが may を譯するには、如何にしても尠ふしても"かも知れぬか"てもよい"の二つ以外にないかの様に、それが日本文として如何にも不自然な言ひ表し方であるのに頓着なく書いたあつたのは遺憾に思はれた。may の意義は全く"かも知れぬ"の意味なのだが、それだからと云つて譯文に、何時も"かも知れぬ"を振り廻すのは甚だ不味い。そうした意味で、言ひ表し方が如何にも日本文らしい言ひ廻しを考へ、適宜に譯するならば上々である。此處などでも"振舞ふかも知れぬ"を"振舞ふ様だ"とすれは一層日本文らしくなつて意味は少しも變らない。

since を"…なる限りと譯したのは日本文として差支へない様だが、矢張り"から"とした方が穩當であろう。

(2) 誰に對しても間違ふた事をせぬとても、或人の行爲が吾人をして其或人を馬鹿又は下等の人物と判斷せしめ、また斯く感ぜしめる様に振舞はれる事がある

かも知れぬ。そして此樣に他人より判斷され、また感じられる事は其人が避け樣とする事實であるから、其人に對して其れより外の事で其人が不愉快なる結果を招く事に就て警告する樣に、前以つて其上述の事に就て其人に警告するは其人に對して友誼をつくすことである。(宮崎君)

この答案も譯文としては決して上出來のものとは云はれない。殊に其と云ふ字の連發は文章として避くべき事である。なるべくは同じ字を用ひない樣にするのが文章として苦心を要する所なのであつて、 to warn を警告と前に譯すれば、次には警める、注意する等と云ふ風の同じ意味で言ひ延しの違ふ字を用ひる樣にする方がよい。然し意味は非常に明瞭に了解されてゐるらしい。今少し文章に氣を付けて冗漫に失しない樣にすることを御注意する。答案はたゞ意味ばかり通じてゐても、言表に不注意があれば、從つて意味も曖昧になつて終ふから、此邊に氣をつけられ度い。

また may を“かも知れぬ”としてゐるのは前答案同樣だが、to warn of it の it を“其上述の事に就て”と譯したのは上出來である。意譯に失して、試驗官に

其人の本當の英語の力を疑はしむるのは勿論失策だけれど、こんな場合にを直譯して“それ”と書くのは直譯の拙なるもので、此處で本答案の如く意譯して欲しいと思つた。

(3) 格別誰に對しても犯罪にならないけれども自己を馬鹿者だとか或は劣等であるとか我々をして判斷させ又感じさす樣な振舞を爲す人があるが右の樣に判斷せられ感せられる事は其の人は望みとしない所であるから他の不愉快な事に就て警告してやるのと同樣、豫め警告してやるのは其人に對する一の奉仕である。(山本君)

この答案は、譯文としては、かなりすらすらと書き下されてゐて讀心地がよい。然し從つて意譯によく伴はれる如く惡ずれのしてゐると云ふ感じがないでもない。例へば文の冒頭の格別などは、日本文として是非あり度い言葉だとは思ふが、試驗の答案としては如何かと思はれる。 doing wrong を犯罪としたのはよくない意譯である。矢張り“惡い事を仕向ける”位に譯す方がよかろう。

may を“かも知れぬ”とせずに、“爲す人がある

が…”としたのは本答案の上出來であつて、日本文として如何にも自然で且つ少しの原文の意味はそこなはれてゐない。prefer to avoid を“望みとしない所”としたのも達文らしいが、これも矢張り忠實に“避けたいと願ふ、いやな”と云ふ樣に譯すか、または“好ましからぬ”とした方がよい。要するに譯文の第一の原則は飽くまで原文に忠實に、その意味を最も正確に言表する事である。その上に譯文としての修辭をほどこすべきだ。だから出來る事なら原文に忠實に忠實にと心掛けて書くべきで、文意を助けるからと云つて他の原文にない言葉など濫に借りて來るのは、小說等の飜譯なら兎も角、短い試驗問題の答案としては考へ物ではないかと思はれる。

（譯文）

誰にも惡い事をしかけるのではないけれど、我々が其人を愚人か又は品性低劣な人物として判斷し或はそう感せざるを得ない樣振舞ふ人があるようだ。そしてかゝる判斷や感情は、彼の好ましからぬ事なのだからそうした事を豫め警告するのは、後に臨んでゐる他の厭ふべき結果を警めると同樣、彼の爲である。

附記、紙面の都合で掲載出來なかつたが中平昌君の答案が譯も達意明快であつたと思ふ。

答　　案

人は敢て誰かに對して間違つたことをなすつもりでなくとも吾々が馬鹿者として若くは劣等な階級のものとして其の人のことを判斷し又感ずるの外なき樣なことをなすことがあるかも知れない。

而して此の判斷と感じとは其の人が寧ろ避けんと思ふ處の事であるからして、其の人が招く他の不愉快な結果に於けると同樣に前以てその事について其の人に警告することは友誼をつくす所以である。（東京市小石川區茗荷谷町一九　山崎方　中　平　昌）

邦文英譯講評

割合に優しいつもりであつた、英文和譯が、存外出來の惡かつたのに比して、和文英譯の方は可成好成績であつたと言はれ得る。何の事を書いてゐるのか薩張り意味の通じないと云ふ樣な答案は、餘り多くは見受

けない樣であつた。然し夫れでも中には、矢張り文法上の著しい誤りが見出だされたり。用法上面白くない點なども少くなかつた。この用法上の注意は初學者にとつて殆ど打ち克ちがたいまでに困難を感せしむる點なのであるが、如何も細心の注意を拂つて、其時々によく記憶し用法に慣れるより外仕方がない。たゞ漠然と和英辭書をひいて、その日本語に當る英語が幾つも書いてある內から、何等語學的な用意なしに選び出すのでは往々にして飛んでもない誤謬を惹き起すことがある。例へば、同じく“企てる”にしても次の幾つかの英語が之に當る。

to plan……畫策する、工夫する。
to device……老案する。計畫する。
to scheme……設許する。工夫する。
to plot……目論む。たくむ。
to under take……やつてゐる。企圖する。

大體同じ樣な意味ではあるが、用ひる時には可成の注意がいる。今“彼は人殺しを企てた”と云ふ邦文を譯そうとして、和英辭書を開き Kuwadateru と云ふ所を見て、

He schemed (devised) murder

などゝ書いては滑稽の至りである。murder の時には plot を用ひる外ない。こうした事は他の言葉に於ても屢々ある事であつて、英語に譯する場合の努力の中の重なるものと云つてよい。よく單語を覺へる際に其邊の呼吸をも、合せて呑み込む樣にせねばならぬ。

次に文法上の誤謬に就て言ふならば、一番多かつたのは、文章の前半に於ける subject の誤であつたこれは文法上の誤と云ふよりも、寧ろ英文と日本文との構文上の差異に通じてない。事から生じた誤謬だと云つた方がよいかも知れない。即ち日本文は通常出來る限り subject を拔かすとする傾向がある。之に反しふ歐文では飽くまでも正確な文法を踏んで行く。殊に一文の主腦となるべき subjict などを曖昧にしたのでは、到底英文は書かれない。

本文の如きも、日本文として讀み下せば至極自然の文章であるが、英語的に見るならば非常に曖昧であるすなはち“五月一日頃に日本に著する豫定である”と云ふ文章の subject は何であるか。まだ“豫定である”と云ふのが、“五月一日頃日本に着する”事ばかりに

關係してゐるのか、或はまた"本月十七日に桑港を發して"と云ふ所まで及んでゐるのか。この二點が先づ問題となつて來る。そして多くの答案の中には第一點に於て、失敗してゐるのが少くなかつた。

a. "世界一週飛行"が主格となつてゐたもの。

b. "各國人"　　が主格となつてゐたもの。

c. 莫然と they とかit を用ひてゐたもの。

この三種の mistake が見受けられた。第一も第二も日本文と英文との subject に對しての差異を明にしない事から起る誤謬である。第三の they とか it に就て注意したいのは、they は必ず前に何か夫れに當る名詞がある場合か、乃至は"世人"とか"世間では"云々と云ふ風の時にしか用ひられない。it に就ても同樣である。それで莫然とした意味で之を用ひるのは考へ物である。

第二の點に就ては、おのづから二通りの見方があつた。即ち第一は"豫定である"を"五月一日頃に日本に着する，のみに關係せしめ、"本月十七日に桑港を發して"を past tense で書いたもの。第二は、兩方に關係せしめて it is expected that を"桑港を發して"の方にも及ぼしたもの。そして中には、實際の事實から判斷して書いてあるのもあつた。この實際の事實から書かれたのは、一番正確で良いのだけれど和文を英文に直す力を試みる此場合としては、聊か考へものではないかと思ふ。なるべく原文を忠實に譯さうとするのが、和文英譯、英文和譯の双方に通ずる原則でなくてはならぬ。それで此場合では、事實問題は少時措いて、單なる日本文を英譯する事として考へねばならない。

それで、そうした立場から自然に讀み下すならば、如何しても"豫定である"は兩方の事實に關はつてゐるとしか思はれない。若し"日本に著する"だけに豫定がかゝつてゐるのならば、"桑港を發して"は"は桑港を筵したので"となるべきである。それで單なる和文英譯としては、私は寧ろ兩方にかけた方のみを正解としたい。

然し時事和文英譯が課せられる主旨の中には、時文に通ずると共に、時事にも明い事が要求されてゐるのであるから、こうした場合に新聞記事などによつて正確に事實を知つてゐる以上、"ば桑港を發して"を過

去に書き"日本に着する"のみを豫定とするのは常識上必要な書き方であると云つてよい。要するに、なるたけ原文を忠實に譯すことを原則とし、その原文の意味の上に、はつきりしない點がある場合には、そうした實際上の知識などを活用して、うまく譯する樣心掛けられ度い。

文の勝手に就いては、さまで誤は見出されなかつたけれど中には to be inferiorto 用ひ方を誤つてゐる答案も少くなかつた。inferiar to の to は同じ意味で用ひられる worse than の than に當るのであつて、その後には比較される對手の noun が來ねばならない即ち"甲は體力が乙に劣る"と云へば

甲 is inferior to 乙 in bodily powev" となる。

然るに中にば、to be inferior to の次に other countries が來ずに、all points of aviation の來てゐるのもあつた。こうした誤も、よくある事だから注意が肝要である。例へば deprive（奪ふ）と云ふ字を用ひる時、"甲が乙の本を奪ふ"と云へば、

甲 deprive 乙 of his book

と書くべきのに、甲 deprive a book of 乙などと書

かれるのをよく見受ける。

英文として文章も序に文字す、すらすら書けてゐて上記の誤謬に陷つてゐる一文を掲げて、それを評しながら研究して見やう。

Rounb the world flight benig dlanned to be participated in by the volanteers of all countries, they will start from San-Francisco on the 17 th of this cnth and are expected to arrive in Japan on the 1 st of may.

It will be a matter of great regret for as all that none of the Japanese takes part in this plane. In all respects, aviation in Japan is much inferior to that in any other country.

世界一週飛行は a flight を前に書けば a flight round the world とするか、flight を後に置けば前の round the world は形容節として、その間を一もて結んだ方がよい。round-the-world flight となすべきである。

Being planned と書けば、通常"計畫されたので"と云ふ意味になるが、subjunctive の"計畫されるならば"となるからである。況んや次に they will と來

るからには、原文を讀まず此譯文だけ讀んだら、如何しても subjunctive に用ひられたと見へる。之は誤である。そして they will の they であるが、之は前にも云つた樣に餘程注意を要するのであつて、此譯文では rolanteers と見ねばならぬ。然し前にも言つた如く、原文は日本文の常として the aroplanes と云ふ subject が略されてゐると見るのが至當であるから、この譯文はよくないと云はねばならぬ。また各國を all countries と譯したのは不味い。こんな時には事實の問題として the almost of western countries とするべきであろう。

後の方で is much inferior to that in…は前に云つた誤である。即ち is much inferior to の次には any other countries が來るべきである。

終りに評者の解答を書いて參考にしよう。

○世界一週……動詞は to go round the world である世界一週旅行は a tour round the world.

若し round the worlb exflight の ajective とするならば？で結んで round the worldflight とする。

○參加する……to participate in ; to take part in など

が普通である。

○企てる……いろいろあるが此處では ndertake がよいと思はれる。

○豫定……直譯すれぼ to arrange previously と動詞で書くか、prearrange と名詞にするかであるが、此處では多くの答案にあつた通り expect を passive で用ひたのが better である。

○桑港を發して……は leaving San Fransisco, starting from San Fransisco と云ふ樣に、現在分間を用ひるのが最も良い。and の重複は文章をたどたどさせて讀みにくいものである。

○到着……arrive at 又は in ; reach get to ; 或は land 等である。arrive は intransitive verb だから必ず at なり in なりの preposition を伴ふが、reach は“到着する と云ふ意味に用ひられる時には transitive verb だから at や in を要しない。答案の中には、幾つもこの種の誤謬があつたから注意すべきである。

標準答案

A flight round the world in which the aviators of

various countries perticipated in has been undertaken; and the aeroplanes are expected to reach Japan about on ist of may, leaving San Fransisco on 17th of this month (april),

It can be our great regret that none of Japenese aviators has not taken in this enterprise. alas! Japan is yet very inferior in all points of aviation.

紙面の都合上、諸君の答案を掲載し得ざりし事を遺憾に思ふ。

第四回練習問題解說

思想問題京大經濟學部試驗問題

高橋茂

英文和譯

〔原文〕 I do not wish to minimize the importance of free thought in this sense. I am myself a dissenter from all known religious, and I hope that every kind of religions belief will die out. I do not believe that on the balance, religions belief has been a force for good. Although I am prepared to admit that in certain times and places it has had some good effects, I regard it as belonging to the infancy of human reason, and to a stage of development which we are now outgrowing.

〔譯文〕

余はこの意味に於ける自由思想の重要さを最小限に

見積りたいとは思はない。余自身すべての既成宗教を非とするものである。そして宗教的信仰といふものの終熄を希ふものである。文化發展の全體から見て、余は宗教が恒久的勢力であつたとは思はない。勿論時と所によりて宗教が相當の貢獻を寄與したことを認むるに吝かではないが、宗教は人間理性の幼稚に屬するものであり、我等が今や脱殼し去らんとする文化發展の階段に屬するものである。

〔註〕この一節は宗教を人文進展の貸借對照表に上せたものとも見られやう。

（1）Minimize＝reduce to, estimate at, smallest possible amount or degree. maximize の反對。Minimum; ——mum はその名詞。

（2）Importance＝meaning; weight; significance

（3）In this sense:——これは、前節に於て、先づ"自由思想"に廣狹二義があると述べ、傳說的宗教の教條を受容せざるものは即ち後者に屬す。されば基督教國で基督教を奉せぬ者は一の"自由思想家"である——尤もこの場合、彼は佛教國でも"自由思想家"であるとは謂へないが—と說いてゐる。で、In this sense

（4）Dissenter＝"dissent する者"であつて、dissent は"從はぬ"；"承認せぬ"；"disagree' などで、殊に（英國）國教を非とすること。ここでは總ての宗教を非とするのである。

（5）Die out :—— (A) Die away, 〔to disappear by degrees, 段々に〕; die off, 〔to die quickly or in large number, 片ッ端から〕; die hard, 〔to die not without struggle〕;——die after operation などといふ新聞句法がある。……And in the majority of young persons it 〔=capacity for nobler feelings〕 speedily dies away if the occupations to which their position in life has devoted them · are not favorable to keeping that higher capacity in exercise. ——T. S. Mill, "Utilitarianism," chap. II.

——(B) Die of illness, hunger; ——from wound; —— by the sword; etc.

…the Rabbi Akiba, when imprisoned and punished with only sufficient water to maintain life, prepared to die of starvation rather than eat wthont the proper washings, ——Farrar, "Life of Christ," chap. XXXI,

Gathering Opposition.

——(C) To die game=to keep up one's shirit to the death, 勇ましい死に方をする。To die a dog's death, 犬死にをする。To die a glorious death, 名譽の〔戰死〕をする。Go die on the scaffold, 斷頭臺上の露と消える。Go die a natural (violent, sudden, or preniature) death=定命を完ふして死ぬ（横死、頓死非命)。Go die a martyr=to die for one's faith, 殉教 Go die for one's country, 國家の爲めに死ぬ。At deathis door; on one's death bed; to be on the point of death; in the hour of death=瀕死。死際。His life hangs in the balance=生死の境に在り。

——此邊で止めておかう。本文の die out は(A)の下に入るべきもので、to become extinct, disappear, chose to exist, go out で、"死に絶える' である。——序でに go out の例を引いておかう:——And the fire upon the altar shall be kept burning thereon, it shall not go out;……——Leviticus, 6:12.（壇の上の火をばたえず燃しむべし、熄しむべからず ——利未記)。

(6) Balance=weighing apparatus with central pivot, bean and two scales; the act of weighing two thing, actions or opinions; set off; equilibium, etc. 秤，商量，相償，均合。

——Balance of trade=difference between exports and imports,=貿易の差額。Tavorable〔or umfavorable〕 balance of trade=excess of exports〔or imports〕over inpots〔or exports〕, 輸出若しくは輸入超過。Balance of power,=列國勢力の均衡。Balance sheet=貸借對照表。

——On the whole=概して。On the〔an〕average =平均して。On the balance=秤の上；はかりにかけてみると、が文字通り。

(7) Force=力；勢力；强制力・腕力。軍勢；兵力。〔複〕(=troops) 軍隊。

〔法〕効力——無効=is of no force. 施行——The codes now in force, 現行の法典。Go remain in force; come into force; put in force=施行されてゐる；實施になる；施行する。Force=real import, precise meaning, 眞の意味。To force a word into a sense,

牽强附會——=forced analogy. The forces that wade the world what it is,=今日の世界を成せる大勢。

（8） For good=permanently, 永久に。For a time, 一時，に對して。

（9） although I am prepared to admit……

——Go be prepared=be ready or willing. 用意してゐる；覺悟してゐる；喜んで爲さんとしてゐる

反對の一例：——

Nor is there any school of thought which refuses to admit that the influence of actions on happiness is a most material and even predominant consideration in many of the details of morals, however unwilling to acknowledge it as the fundamental principle of morality, the source of moral abligation.

——J. S. Mill. Utilitalianism. General remarks. To be prepared：——（覺悟。——borce の用例一つ）。

…Education and all other cultural forces are based upon the realization that the individual has to be prepared to face the stern fact.

—Brill. Fundamental Conceptions of Psychoanalysis,

P.160.

(10) In certain times and places……

——In a different time, in a different place, it is always some other side of our common Human Nature that has been developing itself,

——Carlyle, Hero-Worship, Lecture I.

——these six classes of Heroes, chosen out of widely-distant countries and epochs, and……

——Ditto.

(11)……it has had some good effects……

=相當の貢献を寄與した……または——

=相當の効果を擧げた。——利目があつた。

(12) Ou grow=get too big for clothes ; get rid of childish habit or taste. ——よりも大きくなる。よりも速に成長する。子供らしき嗜好，習慣等を（年齡の進むにつれて）失ふ。

"Out-" は Teufonic prefix であつて、

A- (a-shore, a-sleep ; a-kin, a—new)

AI- [All] (al-ready, al-together)

For- (for-bean, fot-bid)

などの "Inseparable" に對し。

Forth-coming,

Out-let,

Well-fare

などの "Separable" (=capable of being used as separate words) の下に入れて distinguish する。"Out-" 副詞的、形容詞的、動詞的に動詞または名詞の前に prefix されてゐる。

下にいろいろな用法の場合の例を簡單に擧げておく:——

(1) Outpread. (2) Outcast (3) Cutbreak, (4) Outline, (5) Outboard. (6) Outgrow; Out-herod Herod.

などであつて、"Out-" は一般に "超過" の義を有する場合 (prefixed with general sense of excess to…) が (6) であり、更にこの (6) の場合を細別して "Outgrow" の Group は "動詞に附して其主格が程度又は分量に於て目的格以上なることを示す場合 (prefixed to a verb enabling it to take as object something in the

nature of a limit or amount that is exceeded) である。

附記。本文は矢張り Bertrand Russel から採つたものであつて、順序から言ふと、前號の前に來るものである。——これで Russel は打切りとする。

和 文 英 譯

〔これは京都帝國大學經濟學部選科の入學試驗和文英譯(A)(B)二題のうちの (B) の方である〕

〔原 文〕

此世の中に虛言の餘りに多いのを不快と爲す虛言も時として已むを得ぬことはある。死期に迫まつた病人に容態を打開けることの出來ぬなどといふのは已むを得ぬことだが、各人が其自身の利益の爲めに虛言をいふは良心に對して相濟まぬとしなくてはならぬ。虛言で固めた世の中から全然虛言を除く事は出來なからうが、せめてこれを公人の世界からなりとも除きたく、其には公人の虛言に對する社會的制裁を嚴重にするのが何よりも先きのやうだ。

〔譯 文〕

(1) O that the world be free from lies!

Sometimes they may he regarded as an unavoidable way of dealing, as, for example, when one deems it discreet to do otherwise then telling the truth to a patient on the brink of death of his condition. People, however, often tell lies that they may thereby attain their egoistic ends; such people ought to remember that they have to obey the dictates of conscience, that these lies should on no account prosper. If it be an unattainable ideal to clear the world of every particle lies which are its sum and substance, this mnch wight well be expected that they be eliminated at least from the sphere of public life. the first thing, then, necessary for us to do to-day with this in view, would, undoubtedly, be the enforcement of a strict social restrict upon people such as above.

〔註〕

1. 先づ"虚言"といふ字の Eguivalent である。Lie; falsehood; deceipt——などいろいろある。ここには Lie を採つた。"while lie" などとなると"罪のない嘘"(=well meant balsehood; excused or justified

by its motive) だ。だが"虚言"の講釋は本文がしてゐるらしいから、"Lie を採つた"に止めておかう。

2. 不快となす。——Disagreeble,……be offended; などであるが、意を寫すに一寸考へるところであらう I do uot like…とやるのも passable だ。

3. この一行の構文の Alternative を言へば ;—— the world with its subtle machination of lies and falsehood——I feel…… などと御化粧してもよい。

4. 出來ぬ——when compelled to……——has to keep oneself. from など cases of force majeure を表はす。

5. 已むを得ぬ……would be justifiable ; ……and therefore permissible を附加へるやうな Constraction もよい。

6. 虚言といふは…——in such act as telling lies ;…in comersation of this kind…

7. 相濟ぬ…——be without excuse. …としなければならぬ=ought to know, etc. 良心に對して…ought to listen to the voice of conscience, if any, など。

8. …全然…出來なからうが=though it would be

building an air-castle to crave for…,yet…though may は…yet で受けるのが通型。

9. 虚言で固めた世の中から——…lies, the staff it 〔the world〕 in made of…Another alternative としては:——

…from the world, on lies and falsehood as it has come on prospering…なども考へられる。

10. せめて…この文字だけでは at least, at wost, at best などであるが、"不快となす"のやうに、一寸工夫を必要とされるかも知れぬ。

11. 公人=public man. 取除く=eliminate がよからう。Elimination of the social evil などといふ。

12. それには…In order to…も不可はない。

13. 社會制裁——輿論の制裁=the bar of public opinion. 嚴重にする=stricter social restrict と strict をComparativeにして見るのも一法。要はここのところの頭の持つて行き方だ。それで…enforcement of を棄てて、…introduction of を採ることも出來やう。

——この問題に對して、譯文例を擧げ、次に註して更に一例を附加する考へであつたが紙面の都合上、之を省いた。

platitude 王.M

第五回練習問題解説

英文和譯

(1) The statement that the work of the Old Masters can be effective for popular education is not such a platitude as it will first appear. It is both more disputable and more true than it seems. For the truth is that the great art of the past can be used for this purpose where a great many other methods now generally adopted are quite clumsy and futile. Something of this utilily is shared by the plays of Shakespeare; and by no other agency I know except the paintings of such men as Titian and Leonardo.

—註　　釋—

（1） 繪畫と民衆教育を論じたものである。

（2） Old Masters. 過去の天才。古典巨匠。

（3） Popular education. 民衆教育。Popular election; popular neetings, などは Of, carried on by, the people であり。

Popular language; popular science, などは adapted to the understandiug, taete, or means, of the people である。

（4） Platitude＝Commonplace remark, an empty remark made as it is were important. で、平凡、陳腐。＝Nat which exhibits dullness of thought; commonplaceness.

（5） as it will first appear. "最初にそれが見えるやうに"——これは、最初に感ぜられるやうに、と譯さう。

（6） than it seems. "それが……らしく見えるよりも"——これも、それは思つたより、と言つた方が普通である。

（7） For the truth is……蓋し……と謂ふのが、

その眞相である。或は、蓋し、眞理は……と謂ふに在る。で、單に、蓋し、過去の大藝術は……出來るのである。といふ調子にする。

（8） A great many other methods……are quite clumsy and futile.

現今一般に採用せられてゐる數多くの方法が、全く拙劣にして無用たるに引換へ。若しくは、"現今一般に採用せられてゐる夥多の方法が悉く全く拙劣且つ無用にして見事失敗せるところに入換へて—' も suggest されるが、矢張り最初の方を採つておくとしやう。

（9） can be used for this purpose where……引換へ〔乃至、入換つて〕この目的のために用ひられやうと言ふのであるが、これを、

"この役割を立派に勤められやうと謂ふのである"。として全體の調子から見て、"立派に' を加へるも宜い

(10) Something of this utility is shared by the plays of shakesqeare;……

Share は＝apportion among other; possess or use or endure jointly with others; to have a part, などで、名詞となれば、分け前、持ち分、株式、など。

Utility は、効用。ここのところは、

“この効用の幾分は沙翁の劇が持つて居り、チシアン、レオナルドの如き人々の作品に至つては、どの卓効他に比肩すべきものが無い”の意であつて、前段、

古典巨匠の作品は、かくの如き目的に effective であり、かくの如き効用を持つて居る。

といふことに、個々の巨匠を當て嵌めて見ると、沙翁あり、就中 Titian, Leonardo あり、といふのであるから、前段を承けて、

“沙翁の劇は幾分このことに當て嵌まる。Titian. Leonardo などの作品に至つてはその卓効他に比肩すべきものがない。”

と譯して宜からう。

By the agency of は＝instrumentality である。

(11) No other except……

Other といふ語は、比較級の語尾を持つてゐる。

Other except, Other but, はいづれも ＝other than の意である。そして、

Other than.

Other besides

の場合は意味に相違あることを注意せねばならぬ。即ち、Other than は Other except, other but であるが Other besides は＝Other in addition to, である。

(12) 以上で大體註釋は充分であらうと思ふ。これは G. K. Chesterton が Cassell 社發行の “Famous Paintings”〔全二卷〕の卷頭に載せた序文の Opening paragraph である。

答　　案

古典巨匠の作品は民衆教育に有効なりとの說は、最初に感ぜられるやうに、陳腐なものではない。思つたより議論を容るゝ餘地あり。同時に眞理を藏してゐる。蓋し、この目的の達成のために、現今採用せられてゐる數多くの方法がすべて全く拙劣にして無用たるに引換へ、過去の大藝術がこの役割を立派に勤められやうと謂ふのである。沙翁の劇は幾分このことに當て嵌まる。チシアン、レオナルドなどの作品に至つては、その卓効、他に比肩すべきものが無い。

和　文　英　譯

"我輩は戯れに今日の商業教育は、動もすれば"ビジネス、マン"でなくして、"ビジネス、キャット"や"ビジネス、ドッグ"を造ると言つたことがある、之れは少し極端であるかも知れないが、滿更ら事實の無いことでも無い。

—註　釋—

（1） 我輩。I である。主權者の We, 新聞社説等の Editorial we, は極まつてゐる。

（2） 戯れに。In a joke, jokingly, by way of joke,

（3） 今日の商業教育。The commercial education of to-day.

（4） 動もすれば。apt to ; liable など卑近な言ひ方である。

（5） でなくして。Instead of……; not……but の句法に出てもよい。

（6） 造る。Make がよからう。

——He will make a good scholar of himself.

"America in the making;" England in the making" などよく散見する。character には "character-building" と言ふ。

（7） 言つたことがある。Once said ; said before. Remark や observe を用ひるも good だ。

（8） これは。前段を承けるので、this でよからうけれども、若干の confusion を避けるために、The remark としたい。

（9） 極端。Extremity は直ぐ思ひ浮ぶであらう。議論などで、"それは極端だ" は

you are carrying the matter too far.

などと言ふ。going too far も似たもの。

(10) かも知れないが。May be.

(11) 滿更ら。Not entirely ; not wholly ……で表はす。

(12) 事實。face, truth.

(13) でないこともない。……not without……

(14) 次に、Constraction の方に移らう。別に六ケ敷いところも無い。上の註だけで充分答案は出來やうが、なほ一二註してみやう。この文章の前半は先づよいとして、後半であるが、

(15) ……instead of making business man, の次に it sreal aim を加へれば用意周到である。

(16) 之れは少し極端であるかも知れないが、—— This may be carrying the matter a little too far; は格別言ふところは無く、その次の、

滿更ら事實の無いことでも無い。であるが、

——; but is not wholly without facts……

か、それでなければ、

——: nevertheless で承けて、

——; nevertheless, the remark is not wholly without facts sufficient to support it.

とする。この support を endorse〔裏書する〕といふやうな語に代へてもよいであらう。

(17) または、少しく、level を上げて、

The remark is not altogeher a false reflection of the real situation; a reasonable amount of facts are offering themselves to prove it.

但し、この場合には、"極端かも……" の入れどころであるが、それは、The remark の次に挿入して、

The remark, thaugh it may appear as running to the extremity, is not altogether a false reflection of tha real situation; that is, a reasonable amount of

facts are offering themselves to frove it.

といふやうに書いたら宜いであらう。これで答案を作る。この問題は、福田德三博士著現代の商業及商人から拔いたものである。

答　　案

I have once said, by way of joke, that the commercial education of to-day is liable to make "business-cat" or "business-dog" instead of making "business-man.' The remark may be carrying the matter a little too far; nevertheless, it is not wholly without facts suficient to support it.

高等試驗豫備試驗

大正十三年試驗問題（七月十五日施行）

論　　文

一　生活改善の方策を論ず

二　思想問題に對する國家の政策を論ず

三　犯罪防遏の方策を論ず

以上三問の内一問を選ばしむ

和　文　歐　譯（(注意)答案は各問題の下餘白に記載すべし）

(一)　最近數年來の輸入超過に鑑み我々は國產を奬勵し輸出の增加を計らねばならぬ。

(二)　市當局は震災の結果東京で此の夏傳染病が大いに流行することを恐れてゐる。

英　文　和　譯（(注意)答案は各問題の下の餘白に記載すべし）

(1)　Whatever may be the case in an infinitely remote future, at present no people can render any service to humanity unless as a people they feel an intense sense of national solidarity.

(2)　If the "immigration law" applies to all nations alike, it can impose any limitations or restrictions, but the moment it begins to discriminate among nations, then it assumes the character of an international question. The quetsion of Japane e exclusion, therefore, should be handled by diplomatic negotiation and by treaty—not by legislation.

獨文和譯佛文和譯問題は省略す。

第六回練習問題解說

—英　文　和　譯—

(1)　Whatever may be the case in an infinitely remote future, at present no people can render any service to humanity unless as a people they feel an intense sense of national solidarity.

(註)　Whatever may be……what, how, when, who, 等に ever がついて may が後に來る時は、いつもNo matter what, how, when, who と同じ意味になる。即ち"よし何々であらうとも"と譯される。

the case……この case と云ふ字は、英文を解釋するに當つて、かなり六ヶ敷い word であるから、よく種々の場合を研究して注意して置く方がよいと思ふ。本文の場合では、狀態、境遇等の意味に用ひられてゐる。

infinitely……は"限りなく"と云ふ副詞。

remote……この字には三つの異る意味があるから注意せねばならぬ。第一は"遠い"第二は"片寄れる、僻陬の"と云ふ意義、第三は其等形而下的の意味から轉じて、"甚だ異れる"と云ふ意義に用ひられるのである。この場合には remote from となる。無論此處では、第一の意義、すなはち遠い遠い未來と云ふ事である。

people……この字は、非常に譯し違ひの多い字であるから注意されたい。singular で用ひれば、國民、又は民族の意味になる。plural で用ひると、臣民、蒼生などの意味になる。the people と書けば、平民、庶民の意味だ。またたゞ people だけで、we, they とか同樣、世人、人々等の意味にも用ひられる。例へば、

people say=we are told=they say, の如し。

故に本文の people は、單數であるから、無論國民又は民族の意味である。そして前段の關係上前の方の people は民族であり、後の方の people は國民である

no……can render any service……cannot any は"何等の……をも……得ぬ"と譯す。

humanity……singular に用ひらるれば、人性又は人類、或は仁惠などの意義を有つ。此處では人類の意義に用ひられてゐる。

as a people……"一民族として"と譯す。

sense……これも隨分な多義語であつて、譯するに當り、かなり面倒な言葉である。要するに"心の働き"即ち感覺とか意識とかを意味するのであるから、その場合場合に應じて、文章の意味の關係上、適當なのを採用する外ない。feel a senseは"感覺を感ずる""意識を感ずる""感覺を意識する"など譯され得る。概して、心の深い働を意表する文字は洋の東西を問はず朦朧としてゐるのが常であるから、この三つの譯の何れが最適なかは、なかなか決定しがたい。けれど"感覺を感ずる"と云ふのは二重の言ひ方であるし、"意識を感ずる"と云ふのは用語として穩當でない。むしろ"感じを意識する"と云ふのが、一番適當かと思はれる。feel は普通感ずると譯すけれど、感覺等を目的物として取る時には"意識する"と譯される。

national……形容詞として international の"國際的"に對し"國內的、"の意味。national はまた noun としても用ひられる事がある。

譯」

限りなく遠き未來に於ける狀態は如何にともあれ、現在にては、一民族は、一國民として國家の連帶（國家の共同生活）に就き、强い感じを意識するのでなかつたならば、人類全體に對し何等の奉仕をも爲し得ない。

（2） If the "immigration law" applies to all nations alike, it can impose any limitations or restrictions, but the moment it begins to discriminate among nations, then it assumes the character of an international question.

The question of Japanese exclusion, therefore, should be handled by diplomatic negotiation and by treaty-not by legislation.

この問題も前題同樣あまり難かしくない。本誌の毎月の例題を忠實に讀んで練習されて居る方には、容易過ぎる位だと思ふ。さて見渡した所、さし當り六ケ敷い單語も idiom もない。たゞ the moment it begins の the moment を如何に取扱ふべきかゞ多少問題となる。また單語にしても、いつも時事英文などを讀みつけてゐる人には、普通過ぎるのであるが、そうでない人には或は多少むづかしいかも知れぬ。諸君がなるべくと英字新聞などに接觸して、本文に出て來る樣な單語、例へば dip'omatic negotiation とか treaty, legislation などの言葉を、よく記憶せられんことを切望する。

單語

Immigration Law は"移民法"である。

applies to……apply は常に transitive verb として用ひられる。たゞ法律、法則等の發布などの場合には自動詞として"適用す"の意味に用ひられる。

例。This law applies to all people who live in Japan, not regarding their nationalities.

"本法は國籍の如何を問はず日本在住民に適用す。"

can any は"如何なる……をも……なし得"と譯す初學者は any や some を直譯して"或る"と云ふ風に譯す習慣があるが、注意されたがよい。

limitation は"制限"と譯すべく、restriction は"束縛"である。

the moment ……この moment なども、こうしだ機

會に當つて、よく呑み込んで置く必要のある言葉である。冠詞が definite であるか indefinite であるかによつて、その意味の上に重大な相違を來すからよくよく注意せねばならぬ。

例……{for a moment……一寸、瞬時、
for the moment……丁度その時、その瞬間。

{this moment(副詞)……即刻、今直ぐ、
the moment……當時……

また重要な idiom の例を擧げたれば、

men of the moment……當時の立物、

matter of the moment……當時の重大事件、

to the moment……丁度きつちり。

本文の場合は、單に the moment だけであり、後に then が來るから漠然と"……何々した時に"の"時に"に當る。即ち the moment it begins…の it begins 以下 among nations までは the moment を說明してゐる。

discriminate among……"の中に差別を立てる"

the character…… これなども、多義語の一であるから、よく辭書に就て、それ等各々の意味、用法を辨へて置く必要がある。

Japanese exclusion……"日本人排斥"の熟語である。

diplomatie …… diplomacy は"外交"ばある。diplomatic corps……外交國。本文の diplomatic negotiation は……外交談判。共に時文英語によく出て來る言葉として記憶された方がよい。

treaty……條約。legislation……立法。

譯

若しも所謂("—"を所謂位の意味に譯す)移民法が各國に等しく適用されるならば、如何なる制限をも束縛をも課し得るが、それが國家間に差別を立て初める其時に、國際問題の性質を帶びてくる。故に日本人排斥の問題は、外交談判と條約によつてあしらはるべきであつて、立法によるべきではない。

——和　文　英　譯——

(1) 最近數年來の輸入超過に鑑み我々は國產を奬勵し輸出の增加を計らねばならぬ。

第一に本文を英文に直すに當つて、如何樣な construction にするかを考へて見よう。いつも御注意する

ことであるが、和文英譯の際は、何よりも先づ英文の構成に就て考慮する事が肝要である。構文に關する明な考慮が拂はれるならば、用ふべき單語にせよ分詞にせよ、順序よく排列出來る。よく見かける樣に、participle を間違へて用ひたり、and; and; とたどたどしく and せめにする樣な文が出來上るのは、畢竟構文上の不注意に由るに外ならぬ。

本文を解剖すれば、

1. 我々は最近數年來の輸入超過に鑑みねばならぬ。
2. 我々は國產を奬勵せねばならぬ。
3. 我々は輸出の增加を計らねばならぬ。

だから、鑑みる、奬勵する、增加を計る、これ等は皆等しく we must にかかつてくる。けれど we must "鑑みる"、and "奬勵する" and "增加を計る" では英文として、なつて居らない計りでなく、文の意義も徹底しない。この三つの動詞は、たゞ順序として排列されてゐるのでなく、ある動詞は他の動詞の原因、又は手段となつてゐる。即ち "鑑みる" は、次の "奬勵する" と "增加を計る" の二つに關はつて行く手段と見る事が出來るし、"奬勵し" は "增加を計る" の手

段であると云ふことになる。だからたゞ單に I read a book, and take a walk. などと云ふ風に、read と ta e a walk が個々獨立してゐるのでない。從つて and で結ぶ事は、意義の上から云つても正しくないと云はねばならぬ。

それで、構文上の研究とすれば、先づ第一に、最も決定的な動詞、即ち本文の we must の最後の目的である動作が何であるかを見究めて、それを一番最初に書く。それは明に "增加を計る" ことである。

we mu t "增加を計る"。

この "增加を計る" ことの手段となるのは "國產を奬勵する" ことだ。故に、之は、その次に、何等かの接續詞を以つて、書かれる。

we must "增加を計る" 接續句 "國產を奬勵する"。

以上の二つの行動に同時にかかつて來るのが、"鑑る" である。しかし之は無論二つの行動への手段ではない。原因でもない。云はゞ、その參考となるに過ぎない。こうした場合に於ては、通常その動詞を participle (present) の形に於て用ひる。participle なれば

"……して、しながら"位の意味になる。

We must "増加を計る" 接續句 "奬勵する"、鑑みing……。

本文の構文は、ざつと上の如きものと成るであらう

次に noun 及び phrase 等を調べて見よう。

○最近數年來……"最近"は latest ; most recent ; nearest. 等(以上形容詞)副詞に用ふるならば、of late; recently 等である。數年來は of late years と云ふ。數年來と云へば、意味の上から云つて最近數年來に極つてゐるから、本文の澤も of recent years でよい。特に in the recent few years 等としなくともよいと思ふ。

○輸入超過……"輸入"は imports, importation 等である。超過は excess だから輸入超過は excess of imports, 又は excess と同じ意味の over (形容詞)を用ひるならば over imports である。

○鑑み……普通に to take warning by または to take consideration of ; to take into consideration 等が用ひられてゐる。また或る意味に於ては to take example of をも用ひる。第一の to take warning by は"警戒

する"意味;第二の to take considerantion of は"考慮する"意味;第三の to take example of は"做ふ'意味である。下に用例を示さう。

(I) He should take worning by the failure of his friends in the examination and study dilligently.

"彼は友達の試驗に落第したのに鑑みて、一生懸命勉强すべきだ"

(2) He should take consideration of the fact there should be many rivals in the examination and do his best.

He should take into the consideration the fact there should be many rivals in the examination. and do his best,

"彼は此試驗には多數の競爭者があると云ふ事に鑑みてベストをつくさねばならぬ。

(3) He should take example of the bright success of Mr. A in the entrance examination and be aroused in s'udy.

"彼は A 君が入學試驗に輝かしい成功をしたのに鑑み、奮つて勉强すべきだ。"

○國產……國產を直譯して products of a coentry とするのは不味い。矢張り domestic products とするのが良い。

○奬勵する……verb としては、encourage, stimulate, strengthen, urge, foster 等である。eucoerage は、鼓舞し、振ひ立たせる、意味で、stimulate は、刺戟し、興奮させる、意味；strengthen は力をつける、强固にする意味；urge 急がす、催促する、意味で、fo.ter は養ふて育て長せしむる意味の奬勵である。故に各々異つた場合場合に用ひられるべきであるが、此處の場合には encourage（名詞は encouragement）が最もよいと思はれる。

○輸出……exports 又は exportation だ。輸出を增加するを直譯すれば to increase the exports であるが、之は意味が不完全となる。"輸出を盛んにする"と云ふ意味で to prosper (to make prosperous) the exports と書けるけれど、increase（增加する）の次に exports はいけない。increase するのは expors の amount である、即ち輸出額である。故に to increase he amounts of exports とせねば意味は完全でない。

この邊は和文を英譯する際に當つて、よくよく注意せねばならない點げあらう。

○計る……to device, undertake 等が思ひ浮べられるけれど、此文に於ては、そうした意味の言葉は適しないと思はれる。此處では endeavour, do our best 等、すなはち努力すると云ふ意味の言葉の方を用ひるのが best であらう。

答　　案

We should endeavour to increase the amounts of exports by dint (means) of ecouragement to the domestic productions, taking warning by the excess of imports of recent years. 又は encourage と endeavour to increase を and で結んで、

We should encourag the domestic productions and endeavour to increase the amounts of exports, taking warning by the unfavourable balance of foreign trade.

(unfavourable balance of foreign trade は over imports : excess of imports と同義に用ひられる)

（2） 市當局は震災の結果東京で此の夏傳染病が大いに流行することを恐れてゐる。

此文章の中にも、構文上注意すべき點がある。それは“市當局は……流行することを怖れてゐる”と云ふ點である。之を直譯すれば、

市當局 are afraid of“流行する”

であるが、それでは完全な英文であるとは申されぬ。市當局は流行する事を怖れてゐる、と云ふ原文の意味からして、市當局は流行しはしまいかと怖れてゐる。と書き直したら英文に譯するに都合がよい。たゞ“流行することを”are afraid でなく“流行しはしまいか”を are afraid してゐるのだ。だから“しはしまいか”と云ふ場合に用ひられる形 lest……should を用ひて譯さないならば、本文は完全でないと云はなければならぬ。

次に單語を見てみよう。

市當局……municipal authorities である。anthority と singular number で書けば、通常は權威等と云ふ意味になる。當局者と云ふ意味に用ひられる場合は、いつも plural numcer であるとを注意せねばならぬ。

○震災…earthquake disaster であるが、たゞ earthquake でも差支へない。

○の結果……in consequence of を用ひる。

○傳染病……infectious diseases又は contagious diseases 何れでもよい 流行病と云ふ場合には the epidemic を用ひる。

○流行する……adjective の prevalent を用ひて to be prevalent としても、 pravil と云ふ verb を用ひてもよい。似寄つた字で circulate があるが、之は money などの流通と云ふ時に用ひられるのであるから diseases などの場合に用ひてはならぬ。

○を恐れてゐる……to be afraid が最も普通であらう似通つた字を調べて見るならば、

（1） to be anxious about（for となれば切望すると云ふ意味になつて全然ちがふから注意）これは“氣に掛ける”と云ふ意味だ。

例 He is always anxious about his unhealthiness

（2） to fear は“氣遣ふ”意味である。

例 I fear for his recovery

この fear は for fear of と云ふ句になつて lest……

should と同じ意味に用ひられる。

(3) to apprehend は"危ぶむ"と云ふ意味である。

例 I apprehend his success.

(4) to be solicitous は、ほゞ be anxious に同じである。

(5) to be concerned は"心配だ"と云ふ意味である。I am concerned to hear it.

答　　案

Tokyo Municipai Authorities are afraid lest in'ectious di'seases shcnld be very prebalent in Tokyo this summer in consequence of last earthqake disaster.

第七回練習問題解説

英　文　和　譯

(1) The loss of so important an aid to the intelligent and living apprehension of a truth, as is afforded by the necessity of explaining it to, or defending it against, opponents, though not sufficient to outweigh, is no trifling drawback from the benefit of its universal recognition.

(2) Wealth, then, may be defined, all useful or agreeable things which possess exchangeable value; or, in other words, all useful or agreeable things except those which can be obtained, in the quality desired, without labour or sacrifice.

解釋 (1)

この文章はかなり、混み入つてゐるから、よく文脈を辿つて、意味が混交しないよう注意せねばならぬ。こんな種類の試驗問題が出た時に、受驗者の注意せね

ばならないことは、

1. 先づ飽まで文法的に、文章を解剖してみる。例へば、本文の如きに於ては、so important とある以上その so に相ひ應ずる as なり that なりを探して、それに符牒をつける。

2. かくて後に全體としての意味、即ち此文は何を言つてゐるかを、大體ながら會得することに努める。それには、striking な noun 又は verb 例へば本文に於ては、apprehension of the truth ; opponents ; explaining ; defend ng ; outweigh ; drawback ; aniversal recognition 等の文字に注意しつゝ、落ついて讀めば、略々この全文が何を云はんとしてゐるかが解ると思ふ。

3. こうして大體何を云ふかを、理解してから、先に記號をつけて置いた文法的な注意點とを照合して、譯文に着手するのである。くれぐれも、急いだり、又は文法的、意譯的の一方に偏したりせず、冷靜に分析と綜合をして後に、譯する樣にして戴き度い。

さて第一の方法により、先づ本文を檢して見よう。so……の次には文法的に考へてみて、as is afforded の as が連絡する事は、直ぐ氣が付く。

次に explaining と defending と、participle が二つ重なつて來てゐる。そして explaining の方は to, defending の方は against である。

次に多少、迷はざるを得ないのは、though……以下 to outweigh までの文章の、全體に對する關係であらう。それには、先づ to outweigh(優る ; 勝つ)の object は何かを考へねばならぬ。to outweigh it であるか、to out weigh opponents であるかの二つに一である。それで to outweigh の後に、この二つを書いて置く。

さて第二には、前述の樣に、目立つ名詞や動詞などに注意して原文を、幾回となく落ちついて讀んでみるそうすれば、本文の大體の主旨が、下記の樣なものである事が理解されるであらう。

…眞理を明日に理解するには、反對者に對して辯護したり、說明したりする必要がある。それをしない事は、眞理が一般的に承認される爲に不利益だ……

これ丈けの準備の後に、單語の一つ一つの意味を、文法的に、また文意的に、よく當てはまる樣にしらべるのである。先づ本文の內の、かなり重要な單語及び idiom を列擧すれば、

…loss は普通損失、損害等の意味の言葉であるが、此處では、法律語として用ひられる時の意味の"喪失"と譯した方が better である。序に loss は at a loss と云ふ idiom をなして用ひられる事が、非常に多いから記憶され度い。

He seems to at a loss to understand what these sentences mean.

彼は之等の文章が何を意味するかを了解するに苦んでゐるらしく見へる。

……afford は、生ずる、與へる、堪へる等と譯される verb であるが、本文では無論與へるの意味である。たゞ此字も can not afford と續けて用ひられる事があるから、序に御注意ありたし。

……explaining to; defending against この場合の to も against も共に"…對して"と譯してよいが、心持は to の方は、たゞ單に"相手に向つて"の意味であり、defending against の方は、"相手の攻撃に對して辯護する"意味である。

…though の次には being と云ふ participle を補ふて譯せばよい。

…drawback は不利益；ひけ目などと譯される字である。此處では障害と云つた方がよいと思ふ。

…from the benefit of……直譯すれば、"の利益から"であるが、このbenefit は for the benefit of と云ふ風の idiom として用ひられる。

例へば He change the air every summer vacation for the benefit of his health.

彼は、健康の爲め毎年夏休に轉地する。

それで本文でも universal recognition にとつて（の爲に）と譯した方がよい。

譯　文

或る眞理の聰明で且つ潑溂たる理解に對して、その眞理をば、よし反對者を屈伏さすには足らないまでも彼等に向つて說明し、彼等に對して辯護する必要によつて與へらるる重要な助けを失ふと云ふことは、その眞理の普遍的承認の爲に少なからぬ障碍である。

また多少意譯して次の如くしてもよい。

或眞理を說明に、また潑溂として理解する事に對する重要な助け、即ち、反對者を屈伏さすには足らないまでも、彼等に對して其眞理を說明し、辯護する事の

必要によつて與へらるる所のものを失ふのは、その眞理が一般的に承認される事の爲には、少なからぬ妨げである。

解釋（2）

本文は前文の如く複雜でもなし、大分容易しい。たゞ經濟學上の述語などがあるから、譯すときに多少の注意を要する。そして、なるべく普通に用ひられる術語は記憶して置いた方がよい。

wealth……富とか財物とか譯される言葉である。然し此場合嚴格に云へば economic goods 即ち經濟財の意味である。

may be defined, all の間に as が略されてゐる。

useful or agreeable thing…意味はやさしい樣たがさて譯すとなると、かなり困難な文字である。useful は云ふまでもなく、有效の意味であるが、agreeable とは"快よい"と云ふ意味がある。しかし此文章ではたゞ單に"快よい物"と云ふ意味ではなく、"人に慾せられるもの"の意味である。即ち"有效であるか、或は人が好んでそれを求めるもの"と云ふ意味だ。物の中には有效ではないが、しかも人が好んで其れを

得ようと欲する物がある。例へば骨董品の如きはその一例であつて、之等を agreeable things と云ふ。

exchangeable value は交換され得べき價値で、經濟學上の術語で云へば交換價値である。本によつては、value in exchange（例へば Adam Smith の富國論の如き）と書いたのもある。

in the quality desired は in the quality which is dlesired の略。

譯　文

故に富とは、交換價値を有する、總て有益なもの、或は人の好むものであると定義されてよい。また言葉を換へて云へば、すべて有益なもの、或は人の好ましがるものの中で、勞働或は犧牲なしに欲する量たけ得られ得るものを除いたものである。

和　文　英　譯

（1）或る事實を明白に、また健全に理解するためには、我等は當然の義務として、眞面目で且つ寛大であるべき筈だ。たゞ自己の利害の立場をのみ考へず、對手の主張を同情を以つて聞くと云ふ事は、いやが上

にも考慮されねばならぬ。

（註） 度々言ふ事であるが、和文英譯の場合に最も注意せねばならないとは、英文と邦文との間の言ひ廻し方の相違である。それで、一見すれば、殆ど原文と異る樣な形の英文に書かねばならない必要もしばしばある。日本文はその文法上の不正確さに於て、世界でも有名なのであるから、和文を英譯する時に、先づ我々の考へねばならんのは、文法的正確さである之と反對に英文を和譯する時には、なるべく日本文として natural な書き樣にする。この呼吸を知らないと、不正確な英文や、ぎごちない邦文が出來上る。要は兩國文の間の呼吸に通じ、なるべく natural なものを書かねばならない。

本文に於て、一寸間誤つくのは、"いやが上にも考慮されねばならぬ"と云ふ所であらう。これを直譯しやうとすれば、如何なに書いてよいか一寸見當が附かないのであるが、英文には、ちやんと此の言ひ廻しに相當する言ひ方がある。それは、

can not too……の形である。これさへよく呑み込んでゐれは本文は比較的容易である。

單語……"明白に"は clear, intelligent 等が思ひ浮べられる。健全は sound でよからう。また adequate（充分）でも差支へない。理解は apprehension, comprehention, underextanding 等があり、動詞は夫れ夫れ to apprehend; to comprehend; to under extand 等が用ひられる。"當然の義務として"は as a common duty 少し六ヶ敷く書けば as the unavoidable（避くべからざる）duty などとも書けよう。"眞面目で且つ寛大であるべき筈だ"之にはいろいろ書き方がある must be sinsere and generous でもよいが to be requied to be sinsere and generous の方がよい。これが論文體の普通の言ひ方である。

後段の譯し方は、多少の技巧を要する所であらうと思はれる。

これを譯するには、"たゞ自己の……聞くと云ふ事の必要は、誇張され過ぎる事は出來ない"といふ邦文に直して譯すのが一番よいだらう。即ち

The necessity of the fact that……can not be too exagerated.

There can not be too much exagerating for the necessity of the fact that……

などの書き方がある。

（2） 總選擧の結果、過去數年間逆境にあつた憲政會が再び最優勢の政黨となつた。しかしその頭數は百五十人を少し超へるに過ぎないから、自分丈けで絕對過半數を占める事は出來ぬ。けれど所謂護憲派と聯合して新內閣は加藤子爵により組織されるに至つた。

單語と idiom。

總選擧……general election

の結果……in consequence of

逆境に在つた…… to be under the unprosperous circumstance ; to be in negative condition ;

最優勢の政黨…the strongest of all political parties

少し超へるに過ぎない……to be a little over。

自分丈けで……by itself

絕對過半數……the absolute majority

占める、制する……to command

所謂……so-colled

聯合することにより……in conjunction with

新內閣……a new cabinet

本文は構文上に、左程六ケ敷い點はないから、以上の單語によつて作つてみられんことを希望する。

これから和文英譯は、本號の如く、題と單語と Idiom など、及び構文上の注意などを suggest する事にするそして答案は、次號に出す事にするから、讀者諸君が自分で、作文を試みられんことを希望します。

第八回練習問題解說

時事和文英譯

（1） 現下支那の大動亂を終熄せしむる爲に、列强相合同して何等かの手段を採るべしとの提議に對し、幣原外務大臣は、日本は支那自國の問題には干涉しない旨宣明した。

（譯） construction は頗る簡單である。たゞ tense に一寸注意すべき點が在るのみである。

大動亂…普通に云へば disturbance 又は confusion である。然し此處では內亂の意味にとつて the great civil war とした方が better であらう。この civil と云ふ word も注意すべき言葉である。種々變つた意味に用ひられるが、下にその內で記憶すべきもの二三を列擧しよう。

civil law……民法 ; climinal law（刑法）に對する。

civil service……文官又は文官の勤務の意味、即ちその對當は military service……公務である。

civil institution……市民會又は公共營造物の意味でその對當は church institution……教會堂である。その他珍らしい意味は civil engineer……土木技師である

終熄せしむる爲め……終熄するは to end ; to have an end 等である。從つて終熄せしむる爲めは to make it end ; to bring an end to ; to put an end to ; to make an end to ; 等と幾通りにも譯される。

列强……the Powers である。前號にも注意して置いたが Powers が capital letter で書かれる事に氣を付けられ度い。small letter だと authorities と同じく官憲と云ふ意味になる。

相合同する……to cooperate が普通である。

何等かの手段を採る……expedient ; way ; means 等が普通手段と云ふ意味に用ひられる。此場合には way でも expedient でもよいが means は少しよくない。means は單に手段、方法などの意味であるが、此處では政略的の意味のある expedient が最も適してゐると思はれる。採るは to take でもよいが、to resort (…に訴へる) の方が better だ。

例、Towards such a savage-minded fellow as he, I

cannot but resort to an extraordinary expedient.

(彼の如き野蠻な心情の奴に對しては、余は非常手段に訴へざるを得ず)

提議……proposal ; proposition ; suggestion 等が普通である。

外務大臣……the Minister for Foreign Affairs ; the Foreign Minister。

自國の問題……domestic politics ; internal problems 等が考へられるが、廣く intermal problems を用ひた方が better であらう。

干渉……noun は interference ; intervention ; 等が普通である。verb としては to meddle ; to interfere ; to intervene 等がある。

宣明する……to declare ; to make a declaration ; to proclaim ; to make a proclamation ; to pronounce などである。

(譯文)

Fowards the suggestion that the Powers shonld co-operats to resort to some expedient for the purpose of bringing an end to the great civil war of China

at present, Mr. Shidehara, the Foreign Minister, declared that Japan would not interfere in the internal problems of China.

（2） この重大問題に對し日本が大事を取る政策に出たのは、約十餘年前、現總理大臣が當時の外務大臣であつた大隈內閣が、支那の內亂に干涉した爲に手を燒いた經驗からだと、某消息通は云つてゐる。

（譯注） この文はかなり construction に注意を拂はねばならぬ。Sentence の subject は、政策に出たのはである。即ち the fact that……, である。某消息通は云つてゐる、は sentence の最初に出して according to を用ひて譯す。その他は局所局所で說明しよう。

重大問題に對し……towards the important matter でよい。

大事を取る……to have a serious position to; to have a serious attitude to; 等と譯す。

政策に出る……to fix the policy to have……と直譯されるのであるが、本文では Japan has fixed a policy to have a serious attitude to では頗るまづい慨して English sentence の慣用として、なるべく

positive mode よりも passive を用ひる方がよい。Japan を subject にすれば、無論 positive mode たらざるを得ないが Japanese policy とすれば possive に書ける。即ち Japanese policy has been fixed (or settled; decided) to have a serious attitude towards ……とした方が better である。

約十年前……about ten years ago と譯せばよい。some ten years ago でもよい。

現總理大臣……the present Minister President, the Prime Minister of present time.

當時の外務大臣……當時は at that time と副詞句に用ひられるが、當時のと云ふ adjective としては then の外ない。then には下の四通りの異つた用法があるから注意され度い。

a; then が adverd として用ひられる場合、

例 I was then too much excited to think it over calmly.

僕は當時餘り昂奮してゐたので、夫れを冷靜に熟考することが出來なかつた。

b; then が conjunction として用ひられる場合、

例 The time pressed so dangerously, then I conld not help resorting to such an expedient.

時が非常に危急に迫つたので、私はその樣な手段に出でざるを得なかつた。

c; then が adjective として用ひられる場合：

He was the then Governer.

彼は當時の總督であつた。

d; then が noun として用ひられる場合：

There has never been such a thing in this country before then.

其以前に、斯樣な事は此國中に決してなかつた。

手を燒く……動詞としては to burn one's fingers badly. と慣用されてゐる。

例 He burnt his fingers badly in this business.

彼は此事業には手を燒いた。

然し本文では意譯して"手を燒いた經驗"を"非常に痛い（辛い）經驗"としたらよいと思ふ。即ち the very bitter experience としてよい。

某消息通……某は a certain である。消息通は intelligencer 消息通は云つてゐるは according to a

certain intelligencer……或消息通によれば……と譯してよい。

內閣…Cabinet である。cabinet と云ふ字は、private chamber の意味で、昔の內閣の政治が王宮の cabinet によつて行はれた當時の名殘である。

經驗から……through experience; on account of the experience 等と譯されるが、此文を譯するに當つては前後の文脈との關係上これは面白くない。the fact that ……と云ふ主格が、the bitter experience の故であると云ふのだから to be due to; to be attributed to; to be accounted for; 等を用ひて譯す。

譯文

According to a certain intelligencer the fact that Japanese policy has been fixed to have a serious attitude towards this important matter seems to be due to the bitter experience (which) Okuma cabinet being the same with the present Minister President. was received some ten years ago owing to its interference in the civil war of China, the then Foreign Minister

(3) クレバランド氏は、南部印度で捕獲した多くの猛獸その他の生きた動物標本を携へて、上海から九月三十日正午神戸に着、同日夕方横濱經由サンフランシスコへ向つた。

本文は一見簡單な樣に見へて、なかなかconstructionの考へ方に困る問題である。南部印度……携へてまでは、云へばクレバランド氏の說明であるから、その樣に書かねばならぬ。初めて書く人は、よく此樣な場合に Mr. Clevaland who……と云ふ風に書く。文でも決して文法的に誤つては居ないが、ぎごちない感じがする。いつも云ふ樣に此樣な場合には participle plesent を用ひて譯すのがよい。

生きた動物標本……live zoological specimens である。猛獸その他多くの…を譯して many wild animals and other live zoological specimens とするのは、たゞに文章として不味いのみならず meaning の上から云つても完全でない。即ち wild animals と zoological specimens とが別々になつて終ふ。然るに本文では wild animals も亦 zoological specimens の中に含まれてゐるのだから、そこを何とか書かねばならない。

すなはち live zoological specimens including many wild animals と云ふ風に書けば意味も明瞭になる。

携へて……to carry—to take with 等が普通であるが、玆に最も注意せねばならぬのは、海上の特別な用語である。即ち to carry だけでは、船で物を運ぶと云ふ場合には不充分である。to carry on board とせねばならぬ。on board は"船中に；船上に"等の意味の idiom である。

着……こんな字は餘りに屢々用ひ慣れてゐるのであるが、それでいてよく間違ひ易い。平凡な用字に不注意なのは、我々の弱點であるが、英文を書く際など特に注意すべき必要がある。

{to arrive at
{to arrive in

to arrive at は國內の旅行等の場合、普通に用ひられる。然し到着する目的地が國か大都會の場合には to arrive in を用ひる。本文 場合には支那方面から日本に着いたのであるから to arrive in である。

to reach の時には、前置詞をとらぬ。よく reach on; at; to 等と間違へて用ひる人がある。

九月三十日正午……この日や時間の譯し方も、平凡すぎるほど屢々ぶつかり乍ら、一寸した事で間違つたり迷ひ易いものである。此際 exact な記憶をして欲しいと思ふ。

例 A concert will be held at Hibiya Park on the 11st at 3 P. M.

(十一日午後三時より日比谷公園で音樂會が催される)

即ち日附を前にして、その前置詞は on; 時間の方の前置詞は at である。

經由して……via(ラテン語)を用ひる。

サンフランシスコへ……"へ" と云ふのに to, を用ひる人が多い。一寸考へると無理もないが、元來"…行の"汽車、汽船などと云ふのは the train which is bounded for……と譯すのであつて、その be bounded for が略されて for だけ殘つてゐるのである。だから間違へずに for を用ひる樣注意されたい。

(譯文)

Carrying on board a collection of lvie zoological specimens, including many wild beasts captured in the southern parts of India, Mr. Cleveland arrived

in Kobe on the last of September at noon from Shanghai and sailed for San Francisco via Yokohama the same evening.

和 文 英 譯

(1) The "people" who exercise the power are not always the same people with those over whom it is exercised; and the "selfgovernment" spoken of is not the government of each by himself, but of each by all the nest.

此文には目立つ樣な idiom も、見馴れない word もない。平凡な言葉のみで書かれてあるが、その構文には可成注意すべき點が多い。よく受驗學生仲間に流行してゐる所謂難句集とか idiom の研究とか言ふ事も、無論大事な事に違ひないけれど、本來から云へばあんな方法は決して英語の根本的な力を養ふものではない。あゝした方法で試驗するのは、讀書力を見るべき英語の試驗を、宛ら歷史か地理の樣な記憶學科の試驗と同一視しようとするのであつて、決して稱賛すべき事ではない。それで、近來の語學試驗の一般の趨勢

が、昔の樣に滅多に本に出ても來なさそうな六ケ敷い idiom や construction よりも、寧ろ讀書力、理解力を試驗せんが爲に必要な態度の問題を出す樣になつたのは、けだし喜ぶべき現象でなくてはならぬ。玆に掲げた例題の如きも、正にその一例たるに足ると思ふ。讀者諸君が、かの投機的要素の多い idiom 研究にのみ沒頭さるる事なく、根底ある英語の讀書力、理解力の養成にも努力さるる事を切望して已まない。

（註解）

the power……power は通常"力"の意味である。この力と云ふ意味からして、種々な意義が分岐して來て、所謂多義語の一例に用ひられる。その重なるものを擧ぐれば

(a) power＝列强、强國

Of all the powers in the world at present the U. S. A. is thought as the most influential one,

（現在世界の列强中アメリカ合衆國が最優勢であると考へられてゐる）

(b) power＝委任狀、代理權等。

This advocate has received the power of attomey

about the practice of the matter from the inheritress uncle.

（この辯護士は、本件訴訟手續の委任權を女相續人の叔父より受けた）

(c) power＝adjective として用ひられる場合、この場合には a power of として用ひられ great; many, large などの意味になる。

There were a power of labourers out crying and abusiug the directors for their attitude to them in the park.

（公園には、自分達に對する會社重役達の態度を叫び罵る大勢の勞働者達が居た）

He did a power of business.

彼は大變仕事をした。

斯くの如く noun に不定冠詞 a を附すると、屢々 adjective に用ひられる事があるから注意され度い。數年前の中等教員の檢定に出たのは其一例である。

(1) He is a boy of captain

(2) He is a captains boy.

この二文の區別をせよと云ふのが其問題であつた。

(一)の方は a boy of=boyish となるから"彼は子供らしい船長である'と譯される。(二)の方は、あたり前に"彼は船長の子である"と譯されるのである。

the same……with……„同一の"と云ふ意味。

over whom it is exercised の it は the power である。

Self-government……自治政府。

spoken of……之は which is spoken of by people の異である。to speak of……に就て言ふ。と云ふ意味のほか It is much to speak of (それは大に論ずる價値がある) と云ふ風の使ひ方もあるから記憶されたい speak of は玆では so-called の意味にとつてよい。

by himself……之は by all the rest と對照してある by himself は"獨りで、隔れて"と云ふ副詞句である。by all the rest は"皆一しよに"と云ふ adverbial phrase である。

(譯)

權力を行使する人々は、いつでもその下にある人々とは同一でない。かくて所謂自治政府と云ふ事は。各人個々の政府と云ふのではなく、各人一同の政府なの

である。

(2) If somthing is good, that means that it is always right to try to bring it into existence, except so for as it stands in the way of some greater good. On the other hand, the judgement "this act is right" always, if thought out, implies that there is some good which ought to be realized, absolutely, for its own sake, as a means to no end but itself.

餘り短い文章で idiomatic な研究をするのは、讀書力に貢献多からじとの考から、第二題もかなり長いのを選んだ。此文も單語は悉く familiar なもの許りだが構文の點に於てはかなり六ケ敷い方である。

(註解)

That……that は英文を讀むに當つて、かなり注意を要する字である。試に下の文章を解して御覽なさい。

That that that that that studend said is pronoun is mistake.

これは、よく用ひられる語學遊戯の一種だけれど、とに角これでも意味の通ずる一文である所を見ても、that が如何に多樣の意味に用ひらるるかゞ解る。この

解譯は次號に掲げるから、諸君も試みて置いて下さい

that means の that は if something is good の全體を承ける。即ち“この事は”と云ふ意味に用ひられてゐる。

It is always right の it は to try である。It はかく屢々 infinitive の先行語として用ひられる。

to bring it into existence……玆の it は云ふまでもなく good something である。bring into existence は“實現せしむる”と譯す。

so far as……よく出て來る idiom であるからよく、はつきりと理解されて置く方がよい。so for は、“此程度まで”の意味である。

It is not necessary to trace out those consequences so far.

（此處までも之等の結果を追及するには及ばぬ）so far as は“……する限りは”の意味である。

We must consider all the consequences, so far as we can.

（我々は出來る限りは全ての結果を考慮せねばならぬ）

to stand in the way of……“邪魔になる”と譯す。

to get in the way も同樣である。

If though out……if の後には屢々文章が略される。これもその一例で本來は if it is thought out である think out は“熟考する”と譯す。

for its own sake……“夫れ自身の爲に”である。science for science sake; art for art sake などと ふ用法と同じである。

as a means to……“……に對する手段として”であるが、注意すべきは means と云ふ plural number の noun に a なる單數不定冠詞の附されてゐる事である。mean の特別な語法として、屢々この樣に用ひられる。a があるから means を單數だと思ひ間違へる人が多い。

no end but itself……nothing とか not, no 等否定の言葉の後に來る but は“の外の”の意味である。

as a means to no end but itself を直譯すれば、“夫れ自身の外の何等の目的の手段でもないものとして”となるけれど、むしろ此處では to no end but itself は to only itself と同じに譯し“それ自身のみの手段として”とする方が日本文としては Letter である。か

く nothing but, no……but 等は only, soley 等と同じに譯す方が文章として見よい場合が多い。

例へば He is nothing but a pedant.

直譯すれば"彼は生物識の外の何物でもない"となるが、日本文としては"彼は生物識たるに過ぎぬ……he is only a pedant……"と譯した方がよい。

譯 若し何事かゞ善であるならば、この事實は、その事が或るより大な善を妨ぐる場合だけを除き、(その事が或るより大な善を妨げない限り、と意譯してもよし)その事を實現させようと試みるのは常に正しいと云ふことを意味する。また一方に於て、此行爲は正しい、と云ふ判斷は、よく考へて見ると、絶對に夫れ自身の爲め即ちたゞそれ自身のみを目的とする手段として實現さるべき何等かの善の存在する事を、常に意味するのである。

× × ×

× ×

第九回練習問題解說

時事和文英譯

(1) 昨日の閣議に於て、政府は十二月二十四日に第五十議會を召集することに決定した。議會召集の勅令は十二月十四日頃發布されるであらう。

(註) 構文に何等六ヶ敷い所はないが、時事英文として知つて置くべき單語や、言ひ廻しがあるので最初に選んでみた。讀者諸君は、こんなやさしい簡單な文章を、書きこなすことに能く熟練せねばならぬ。

單語……

閣議=the Cabinet council である。cabinet は capital letter で council は small letter であることに注意。

十二月二十四に=もう屢々繰り返されて、殆ど commonsense of language に成つてゐる筈であて、しかも最も誤り易いので日附の書き方である。よくよく記憶され度い。日の時には on 時の時には at である

それで十二月二十四日なれば on December 24. または on the 24th of December; 十二月二十四日午後二時なら on December 24 at 2 P. M. である。

第五十議會=the 50th session of the Jmperial Diet である。

召集する=to convoke; assemble; convene; to call out などがある。to call ont は軍隊の召集の場合に用ひられる。上から下に向つて、呼び出す意味を含む There was no other way than calling out the reserves. (豫備兵を召集するより外なかつた)

convene; assemble; convoke 等は大體同じ意味である何れを用ひてもよろしい。然し最も普通には to convene が用ひられてゐる。

決定した=decided to; to determine; to fix などがある。

議會召集の勅令=勅令は the Jmperial Ordinance である。召集は convoke の novn なる convocation を用ひる。だから議會召集の勅令は the Jmperial Ordinance for the convocation of the Diet である。

發布する=to issue が普通である。憲法發布などと

云ふ時には promulgation なる字を用ひる。

例 日本帝國憲法は明治二十三年二月十一日に發布された。

The constitution of Japanese Empire was promulgated on the eleventh of February in the 23rd year of meiji.

(譯文) At the Cabinet council yesterday the Government decided to convene the 50th session of the Jmperial Diet on the 24th of December. The Jmperial Ordinance for the convocation of the Diet will be issued about December 14.

(2) 從來は毎日の樣に、安寧秩序を害する記事を掲載したる廉によつて、發賣禁止を命ぜらるゝ新聞、雜誌があつたが、近頃は、そうしたことが滅切り稀になつた。

これは言論そのものなり。その發表の形式が穩健になつて發賣を禁止する要がないからではなく、實際には其樣な思想言論が寧ろ社會の趨勢を導く力となる樣に時勢が變化したのによると云ひ得るだろう。

(註) 本文は前のに比べると、長さも長いし const-

ruction の上にも、かなり混み入つた所がある。いつも云ふ通り大體の構文の方針を立てゝ後に、言ひ廻しなり單語なりの serection に取り懸らねばならない。

先づ"從來は……新聞雜誌があつたが"までの構文及び單語に就て考へて見よう。先づ第一は、新聞雜誌を主に見て Newspapers were formed の形。

第二は、發賣を主と見て、新聞雜誌の發賣が禁止されると書く The sales of the papers which……were prohibited (又は put under the ban) と書く形。

第三は、發賣を禁止する當局者を主として書く。即ち authorities suspended the sale of……の形である。その何れでも良いから、最も都合よいのを採つたらいゝ

次に"近頃は……稀になつた"は"そうしたと"を主語にしても、we find seldom としても何れでもよいが、前半と參照して成るべく重復した形を採らん樣に注意したがよい。

後半の"これは言論……要がないからでなく"までの構文は、This should not be attributed to (due to; accounted for) the fact that を受けて組み立てられる即ち discussion itself or the from for its expression

が too gentle to receive such prohibition と云ふ風に書くか、或はまた、形式が gentle になつた爲め there is no need to prohibit ; there is no need of prohibition ; と書くか、その何れでもよい。原文に忠實と云ふ點から云へば、後者の方がよいであろう。

構文に就ては、これ丈け位にして次に單語や言ひ廻しに就て考へて見よう。

從來＝これは普通 adverb として用ひられるが、從來の國家、と云ふ風に adjective としても用ひられる副詞としては hitherto ; heretofore ; up to this time ; up to the present, ever, before などがある。adjective としては the list ; the old など。本文では adverb の hitherto を用ひたら良いであらう。

毎月の樣に＝非常に平凡であつて、さて書こうとすると却々しつくり適合する譯語の見出せない言葉が多いが、是れなども先づ其一例と見るべきであろう。直譯して as in every month などとしてはいけない。毎月の樣に、と云ふことは"殆ど毎月'と同じ意味だから almost every month として差支へない。

安寧秩序を害する＝安寧は public peace ; 秩序は order

である。害する、は to injure; to harm 等であるが、寧ろ adjective を用ひて to be harmfui ; injurious; baneful deterimental 等とした方が better である。全體は to be iujurious to public peace and order となる。

記事=articles; reading matters; contents など。

掲載する=to publish である。廣告などを掲載する時には to insert を用ひる。

廉により=廉は ground を普通に用ひる。on the ground of idleness—怠墮の廉により一の如く用ひられる。

發賣禁止を命せられる=to be prohibited to be sold; また發賣を主語として譯すれば a sale…be prohibited となる。ban (禁止) を用ひて to be put under the ban と云ふ idion にしてもよい。

新聞、雜誌=新聞は a uewspaper であるが、ap aper. a journal でもよい。雜誌は a magazine; a journal。

近頃=recently; lately; of late.

滅切り稀になる=滅切りは、considerably ; remarkably, very などでよい。稀になるは、to be seldom found; to occure rarely 等でよい。

言論そのもの=discussion (itself) ; argument ;

發表の形式=the form of its expression ; または發表の方法と解して the way of its expression でもよい。

穩健=moderate; peaceable などでよい。

要がない=there is no need to この時には to の後に必ず動詞の root form が來る。there is no need of の場合には、noun, pronoun, gerund が來る。

例 (1) There is no need to read so many books. to attain the true knowledge of human life.

(2) there wonld be no need of doctors, were the man to take a proper walk in the open air.

社會の趨勢=social tendency. the tendency of the world。導くは lead である。guide; show the way などは皆案内する意味だから此處には當らぬ。

實際には=in reality; speaking the truth ; to tell the truth 等があるが、玆では in reality が最も適してゐる。

なる樣に＝so that を用ひて譯す。so as も同じ。

時勢が變化した＝ circumstances have changed so that……と云ふ形に書けばよい。

による＝これは普通 to be attributed to ; to be due to ; to be accounted for ; 等が用ひられて、その後には the fact that clause……の形となる。

本文に於て tense の點に注意すべきは、最初の"新聞雜誌があつた 'have been found と書くと、次の"近頃は稀になつた"が have become rare となるので釣合がとれないから were を用ひる事。そして"發表の形式が穩健になり"云々の場合、之は無論本當の事實でなく"穩健になつた"と云ふ事を假定して言ふのだから、當然 the fact that carrent thoughts or the forms of their expressions might have become mode rate…と書くべきであるが、前に this should not be attributed to があつて subjunctive の形を取つてゐるので、重復を避け might have become は、たゞ become でよい。

また"云ひ得るだろう"は may be due to だが、should と、相應ずる爲め might be due to とする。

Almost every month hitherto usually some newspapers and maga ines were prohibited to be sold on the ground that they contained certain articles harmful to the public peace and order, but recently such cases have become very rare. Tl is should not be attributed to the fact that carrent thoughts or the forms of their expressions become so moderate that there is no need of prohibiting the sale ; but it might be due to fact that circumstances have changed so that these thoughts are rather becoming a beading force of the social tendency.

（3） 政府は貴族院改革問題考究の爲め、特別委員會を創める事に決した。

これも、第一問と同じく構文等に何等六ケ敷い所はないが、時事英文の單語に練れる爲めに選んだ。

（註） 貴族院＝the House of Peers ; 英國では the House of Lords と云ふ。

改革＝reform ; reformation. 問題は problem ; question 等。

考究＝to study ; to investigate.

の爲め=in order to; for the purpose of; in order that など。in order to の次には verb が來る。in order that には clause が續く事に注意。

特別委員會=a special commission である。

創める=to create で充分である。

(譯文)

The Goverument has decided to create a special commission in order to study the problem of the House of Peers.

もし a special commission を subject として書くならば、次の樣にも書ける。

a special commission has been decided to be created by the Goverument for the purpose of studying the problem of the House of Peers.

前號の That[1] that[2] that[3] that[4] that[5] gentleman read is pronoun is mistake、を旨く譯された人がありますか。あれば次の樣に譯すのです。

"that[5] gentleman が讀んだ所の (that[4]) ある(that[2]) that[3] が pronoun だと云ふ事 (that[1]) は mistake である。"

英文和譯

(1) A much weaker party in all other elements of power may greatly predominate when the powers of government are thrown into the scale; and may long retain its predominance through this alone; though, no doubt, a government so situated is in the condition called in mechanics unstable equilibrium, like a thing balanced on its smaller end, which, if once disturbed, tends more and more to depart from instead of reverting to, its previous state. (from J.S. Mill; "Representative Government.)

(註) 本文は可成混雜した construction に成つてゐるので、餘程注意しないと間違が起る。いつも言ふことであるが、最初幾邊も繰り返して讀んでみて、大體の見當がついてから、今度は精細に文法的な考察を下す樣にするがよいと思はれる。本文などは、豫備試驗の問題としては、寧ろ六ヶ敷い方に屬するのであるが、讀者諸君が先づ自らが、試驗問題にぶつつかつた積りで、やつてみて夫れから此註釋を見るようにすれば、

かなり效果があると思ふ。何と云つても語學は、何よりも先づ自分で苦しんで見ないと、實力はつかないのだから、餘り手廣く註解書類を漁るよりも、精力を集中して實力を錬られる方が得策である。

本文は非常に省略された書き方を用ひてゐる。こうした省略文に出逢ふた時には、前後の關係から推して多分これが省略されてゐるのだらうと思はれる單語なり phrase なりを挿入してみて譯す方がよい。たゞ焦つて直ぐ譯をつけようとすると、思はぬ所に見落しが出來たり、前後の關係が解らなくなることが多い。それでずつと見渡してみて、普通の構文より少し違つてゐる所があれば、其處に記號をつけて置いて、再讀三讀し省略された部分を正確に見定める樣にしてほしい。

（單語及び Idiom）

element＝直ぐ“成分、要素”などの譯語が思ひ浮べられる。本文でも無論 elements of power…權力の諸要素の意味である。然し序にこの element の idiomatic な用法を記憶されてゐた方がよいと思ふので、下にその例を示さう。

支那の昔の哲學や、古い greek philosophy の間に

は Earth ; water ; fire ; wind の四つに特別な意味を附して考へる傾があつた。四大とか四行などと云ふのはこの四者を指して云ふのであつて、この四要素によつて宇宙は成り、從つて生物は、この中に棲き得ると考へた。こうした哲學的な意義から轉化した element の意味は“範圍又は得意”などの別の用ひ方をされる樣になつた。その例は下の如しである。

He is in his element when creaking a joke.“彼は冗談さへ言つてゐれば得意だ”

I am out of my element in speaking English.

“私は英語を譯すのが不得手です”

predominate＝“優勢である；幅を利かす”

to be thrown into the scale＝本文に於ける唯一の idiom である。scale には大別して二つの異つた意味があるその一は“秤”その二は“階級、規模、割合”などの意味である。本文の scale は第一の意味のものである。

to throw something into the scale、この形の idiom は直譯すれば、“或物を天秤の中に投げる”…この意味から“或物を以つて壓迫する”と云ふ樣に轉化する。

本文の the powers of goverument are thrown into the scale, は passive mood に用ひられた場合である。

retain＝保つ；失はぬ；

predominance＝predominate の noun である。

through＝through は非常に意味の廣ひ preposition であるが、この文では by means of; by dint of, in virtue of などの同義語として用ひられてゐる。

this＝この this alone の this は何であるか、多少惑ふ所だと思ふ。よく此んな場合に出逢はすと、漠然とした譯文で惡く云へば誤間かしたがる人々も見受けるのであるが、あれは非常によくない。その人が本當に解つてゐるのか如何かは、譯文の上にかなり明に浮んでゐる。試驗官の先生達は、そうした點には却々眼が利くものだ。それでこの this なども、よく前後の文章の關係上其意義をはつきりしてから書けば當然"以上の事實；此事實'などと云ふ風に書くのだが、漠然としてたゞ"これ"だけでは意味がすこぶる怪しくなる。即ち本文では this は the fact that the powers of gorernment are thrown into the scale の全體を指してゐるのである。

a govenment so situated＝これを so situated government と混同してはならぬ。一寸考へて見ると何れも so situated が government を modify してゐるのだから、二者とも adjective past participle の如く思はれる。然し之は大な誤であつて、English は French と異り、特別な場合を除く外 adjective は noun の後に來ない。前者は a government which is so situated の which is が省略された形であり、後者は past participle が adjective として用ひられてゐるのである。こんな點が省略文を讀むに際して、よく注意せねばならぬ所である。以下の the condition called; a thing balanced; if once disturbed など何れも省略文である。即ち the condition which is called; a thing which is balanced; if it is once disturbed の省略。

mechanics＝機械學である。mechanical view of life は機械的人生觀。

equilibrium＝平均。

to depert from; to revert to＝ともに its previous state にかゝる。to depart from は"離れる；去る"の意味、to rever to は"立ち歸る。復歸する"意味。

（譯文）

權力の他の總ての諸要素に於て大に劣弱（weak なれば微弱でよいが weaker は比較級であるから、劣弱と云ふ比較の意味を含む文字を用ひる）な政黨も、政府の權力が壓迫に用ひらるゝ時には、非常に優勢たり得るし、また長く、たゞ此事のみによつて其優越を支持し得るかも知れない。然しかゝる位置に置かれた政府は、疑もなく、機械學に於て不安定の平均と呼ばるゝ狀態にあるものであつて、小さい方の端を下にして平均されてゐるが一度動かすと、舊の狀態に歸る代りに、ますます其れから遠ざからんとする（tends to）物體の樣である。

（2） Rumours have it that the Powers are mainly agreed that advice to the warring parties of China to make peace is now opportune. The rumour is still a rumour, unconfirmed by fact, but the chain of events preceding it is such that one cannot brush it aside as wild and wanton. (from The Tokyo Nichi Nichi English daily editi n)

餘り込み入つては居らないが、idiomatic cxpression

もあり construction にも注意すべき點が少くないので之を選んだ。

（註） Rumours have it＝之は special な expression であつて一種の idiom である。have it＝say である。Rumour は verb として用ひれば"世間で噂する"の意味；noun としては"風說、流言"などとなる。rumours have it は"世間に噂がある"と譯す。

Powers＝前にも書いたが power が capital letter で書かれて the の冠詞の附せられた場合には"列强"の意味。

advice＝これは"忠告、助言、意見"と云ふ noun である。verb は advise であるから、よく注意せねばならぬ。本文の如き that advice to—is now opportune の construction に出逢はすと、よく間違へて"に對して忠告するのは今が機會だ"と云ふ風に譯すことがあるが、is の subject には advice と云ふ noun か to advise と云ふ infinitive かでなくてはならんのだから若しも advice を verb と思ひ違へて、以上の樣な譯をすると、この思ひ違ひが一の mistake, その上に infinitive なる to advise でない、たゞの動詞の advise

を is の subject としたと云ふ致命的な mistake となる。文法として、よく注意されるべき所であろう。

opportune＝折よき、好時機の、などと云ふ adjective である。これの noun は opportunity である。

I have thrown away a golden opportunity.

（私は千歳一遇の好機を逸してしまひました）

unconfirm＝confirm は“確實にする。たしかめる”などの verb である。

the chain of events＝chain は直ぐ“鎖”と云ふ字が思ひ浮べられるが、此所では relation とか association などの意味、即ち“關係、連鎖”のことである。events は“出來事、事件”など。events に連鎖した idiomatic の用法を少し記すならば、

Do one's best, and abide by the event.

（人事をつくせよ、然して天命を待て）

In the event of が in case of; if; provided と同じ意味に用ひられる場合。

In. the events of my success＝if I succeed.

また at all events＝at any rate ともなる。

He is not a genius at all, but at all events he

studies very dilligently.

preceding it＝この it は何の pronoun かゞ一寸考へらされる。原則としては、一番手近い noun を指すのであるが、此處では無論 the chain ではなく、the rumour である。

such that＝so that と同じ。

brush it aside＝“掃ひ去ける”から“無視する”と云ふ意味となる。

as wild and wanton＝この as が“…として”の as となるは言ふ迄もない。wild は wild animal の wild として野蠻、粗野などの意味が直ぐ思ひ浮べられるのであるが、此處ではそうでない。本文では wanton と同じく“途方も途徹もない、”の意味である。

In the earliest dawn of human civilization. there seemed to be many prevailing wild fancies which might have make a curious convination with the worship of oldman—this is the origine of religious ideas; scientifist tells us.

（人類文明の一番最初の曙に於ては、多くの奇妙奇天烈な空想が流れてゐて、それが老人崇拜と妙な結合

をしたのが、宗教的觀念の起りであると、科學者は我等に告げる)。

wanton =は"放恣、猥らな"などの意味から"ふざけた;馬鹿げた"等と譯される。

(譯文)

列强は、媾和すべしとの、支那の相鬪ぐ諸黨派への忠告は(advice を"忠告すると"と譯せば、もつと自由に譯せる)今や時宜に適ふものであると云ふことに大體一致したと云ふ噂がある。この噂は、事實によつて證據立てられない、まだ一つの噂に過ぎぬが、然し是れに先立つ種々の事件の關係は、これを途徹途方もない出鱈目として無視するを許さざらしむるものがあつた。

× × ×

× ×

第十回練習問題解說

時事和文英譯

〔例題〕(1) 我外務省は、非公式ではあるが、信憑するに足ると推測さるゝ一の報告を接受したが、それによるとハルビンに於ける勞農政府當局者は、東清鐵道及びその沿線地方の管理に對する大戰以前の舊勢力を回復せんと目下盛に活動しつゝある由。

〔註解〕

本文には三つの書き方がある。

a. The Foreign office has received a……information, according which the Soviet authorities in Harbin are ……の形、即ち原文を忠實に直譯するもの。

b. は文章の初に According to an information which ……と書いて"外務省は……接受した'をこの information の說明語の中に取り入れる形。

c. 第三には文章の書き出しは、a と同じく The foreign Office has received an information と書き、其次に that をつけて that 以下"勞農政府が何々した云々"

を information の attribute とする書き方。

大體上の三通りに書かれるが、第三の書き方が一番 natural に書き下される樣である。

○外務省……the Foreign Office である。

○非公式は unofficial ; 非公式ではあるがと書くには though not official ; while unofficial ; でよい。

○信憑するに足る…to de reliable ; to be trustworthy; to be credible ; などが普通である。本文では"信憑するに足ると推測される"であるから to be presumably true ; to be supposed to be reliable ; 等と書かねばならぬ。

○報告……information ; report 等に用ひる。

○それによると……according to ; judging from 等である。according to の方は、"に從へば"の意味で、重に記聞、報告などによれば、と云ふ風の場合に用ひられる。judging from の方は"……によつて判斷すれば"の意味である。

例の1·諸新聞の報ずる所によれば、東北地方は大降雪にして去る二十日以來交通殆ど杜絶せり。

According to the papers(the reports of the papers)

there was a heavry snowfall in the eastnorthern parts of Japan, and since the 20th inst. traffic has been almost entiely suspended.

例の2.

彼が面前で人を褒めるのを常とする事より察するに彼は恐らく蔭で惡口を云ふ人であらう。

この場合には judging from を用ひる。

Judging from the fact that he is in the habit of praising others to their faces we way take him for a man who speaks ill of them behind their backs.

○勞農政府當局者……the Soviet authorities.

○東清鐵道……the Chinese Eastern Railway.

○沿線地方……the railway zone.

○管理……control である。"管理に對する勢力"は the influence in the control である。

○回復……to regain ; to recover, to reestablish, 等が用ひられる。to regain は"再び取り返す"意味で "recovr" は"舊の狀態に歸る意味 ; reestablish は"再び建て直す ; 作り直す"意味を含む。

○盛に活動しつゝある……to be active in(for).to take

an active part in; 等が普通に用ひられる。

(譯文)

The Foreign Office has received an information which though not official, yet presumably reliable, that the Soviet authorities in Harbin are just now very active in trying to regain their pre-war influence in the control of the Chinese Eastern Railway and the railway zone.

(第三の構文による)

例題 〔2〕

この年末は世界的の不景氣にも關はらず、海外出稼の邦人よりの本邦への送金額は、元日より十一月末日までの總額 33. 800. 000 yen を下らないと云ふレコード額を示してゐる。

(註解)

全體としての construtionは寧ろ平易であるが、言ひ廻しにかなり六ヶ敷い所がある。

……この年末……は the end of the year. 又は this closing year とも云ふ。

例"年末で非常に忙しい"

I am very busy, as it is the end of the year.

……世界的の不景氣……world business depression, dull, hardtimes 等が用ひられる。"世界に亘つての"と云ふ場合には worldwide と云つてもよい。

……に關はらず……in spite of が最も普通に用ひられる。ofの次には noun, gerund, 現在分詞が來る。clause が來る時には in spite of the fact that とせねばならぬ。

この in spite of と同義に用ひられるのは notwithstanding; despite; for all; with all 等である。

notwithstanding は直ぐに clause に續いても用ひられる。

例"彼は年が若いにも拘はらず、中々しつかりしてゐる。"

He is very reliable, notwithstanding that he is yet young.

(比較) He is very reliable in spite of he being yet young (又は in spite of the fact that he is young) despite of は in spite of に等しい。

for all……notwithstanding と等しく clause にも直

接につゞく。無論名詞、現在分詞にも續く。

“あれ程知識はあつても、尙ほ彼はもつともつと學び度いと切望してゐる”

For all his knowledge, he is yet anxious to learn more and more.

with all も for all と殆ど等しい。

……海外出稼の邦人……Japanese who are working 約して abroad，約して Japanese working abroad と書いてもよい。

……送金額……an amount of remittance である。本邦への送金額は an amount of remittance which has been sent to this country と直譯出來るが、餘りたどたどしく成るので an amount of remittance made home (sent to home)by Japanese…と書く方が better である。

……元日…the first of the year である。

……十一月末日まで…… までは up to である。up to には、大體次の幾通りかの意味がある。この際はつきり了解されんことを望む。

○up to が“…にまで”の意味に用ひらるゝ場合。

例“當會社本年度の純益は合計百萬圓に達した”

The net profit of this company for this year amounts altogether up to, 1,000,000, yen.

○up to が“深く辨へる”と云ふ意味に用ひられる場合。

例“彼は深く事務のこつに通じてゐる”

He is up to the tricks of business.

○…up to が“に堪へる；叶ふ；副ふ”等の意味に用ひられる場合。

例“この英語の教科書は新時代の要求に副ふものである”

This English reader is up to the needs of the new times.

“新式英語讀本”……Up to Date English Reader.

……總額……the total amount である。

……下らない……直譯すれば not to fall であるが、玆では“より少くない”の意味に譯さねば意味がはつきりしない。即ち no less than を用ひて譯す。

……レコード……record number, record figure 額を用ひて譯す。

……示す……show, indicate 等。

最後に構文に就て一言すれば本文は次の様な形に譯される。

In spite of……remittance are showing……the total amount ng……すなはち最後は present participle を用ひて、to show a record figure の從屬説明句とするのである。

（譯文）

Notwithstanding that the world business condition of the end of this year is depressed, the remittances sent to home by Japanese who are working abroad are showing a record figure, the total from the first of the year up to the last day of November amounting to no less than 33, 000, 000 yen.

(2) In spite of this closing year being one of worldwide business depressions, the remittances made home by Japanese working abroad are indicating a record figure, the tolal from the first of this year up to the last day of November amounting to no less than 33, 800, 000, yen.

〔例題〕 3.

或る佛國飛行家は、五百キログラムの重量を持つ水上飛行機に乘り、一時間平均百四十二キロメートルで飛んで世界の空中速力の記錄を破つた。

……或る飛行家……some airman である。"或る"には"知つて明かに言はない"時と"知らない時"とあるが前者は a certain；後者は some を用ふ。

……五百キログラムの重量を持つ…to have the weight of five hundred kilograms と直譯してもよいが、to weigh five hundred kilograms と書いてもよい。注意すべきは five hundred を屢々誤つた five hundred kilograms と云ふ風に書くことである。この hundred は kilograms の modifyer であるから plural number にするのは致命的の誤である。こんな事は非常に平凡な事であつて、尙ほ屢々受驗者諸氏の陷り易い過誤の一であるから、よくよく注意され度い。

…… 水上飛行機……hydroplane と書く。

……一時間に……per hour.

……平均百四十二キロメートル……平均は average である。"幾らの平均で飛ぶ"と云ふ場合には to fly at

an average of…" の形を用ひる。

例 "彼は一時間十頁平均に獨逸語の本を讀む" He reads a german book at an average of 10 pages per hour.

……世界の空中速度……the world s air speed.

……記錄を破る……to break the record である。本文では"破つた"とあるが、この"破つた"と云ふ事實は現在完了してゐるので broke と past tense を用ひずに has broken と present perfect を用ひねばならぬ。

（譯文）

Some French airman, in a hydroplane weighing five hundred kilograms, has broken the world's air speed record by flying at an average of 142 kilometres per hour.

英文和譯

〔例題〕（1）If a young man without capital wishes to get on in commercial life, he should earn the goodwill of his employer by performing his duties

so as to show that he is not afraid of doing more than he is paid for doing. (from Hoover's Commercial Text).

本文は左程六ケ敷い單語と云つては殆ど見當らないが、然し可成難かしい方の構文であらう。讀者諸君は大體この文章の程度の construction が、容易に正解出來るようになれば、實力が大分ついたのだと自覺してもよいと思ふ。然し何度も繰り返す事であるが出來る丈け多く讀み、注意して讀んで、本當の根底を据へる事が第一である。受驗勉强と云へば、變な idiom の研究とばかり考へてゐるほど、誤はない。

If……if の用法、譯し方を此所で、最も正確に了解して戴かんが爲に、少しく書いて見度い。

1. of が"若し…ならば"と云ふ subjunctive mood に用ひられる場合。

この if が subjunctive. に用ひられる場合に三つの種類がある。

a.(if に subjunctive present の從ふもの)If it is true, that may not be true.

この場合の if it is（文法的に正しいのは is が be と

なるのだが、現在では普通 rood form の代りに conjugated form を用ひる）は“疑はしい假定”を意味する。即ち“それが若しか本當なのならば、あれは僞なのかも知れない”と譯される。

b.（If に subjunctive past の從ふもの）

If it were true, that could not be true.

この場合は“現在事實の反對の假定”を意味する。即ち“かりにそれが本當だつたのだつたら……實際本當ではないが……あれは本當では有り得なかつたことだろう”と譯される。

c.（if に subjunctive future が從ふもの）

If it should be true, that would not be true.

この場合には“萬々一そうした事があれば”と云ふ風の假定を意味する。即ち“若し萬一それが本當になるとすれば、あれは嘘になることだろう”と譯される。

2. Ifが“不可能な望み”を言ひ表す場合。

If I could be a bird=I wish I were a bird. 共に“鳥に成り度いがなあ”と云ふ不可能を豫期した欲望を表す。

3. If が wether と同じ意味、即ち“かどうか”と

云ふ意味に用ひられる場合。

I can not judge exactly if he will succeed. “私は彼が成功するか如何か、たしかに判斷することは出來ぬ”。

4. if が ever; as; その他の言葉と連結して用ひられる場合。

例 He behaves himself very proudly as if he were a master among them.

“彼は宛ら自分が彼等の間で主人ででもあるかの如く、甚だ誇りがましく振舞ふてゐる”

He has found himself in good marriage, if ever man did.

“彼が結婚に幸福であつたと云はれないならば、世には曾て結婚に幸せられた人はない。”又は直譯して“曾て世に幸福な結婚をしたと云ふ人があるならば、彼こそは、それである”とも往々譯されるのを見る。

He is a youth of promise, if anything.

“どちらかと云へば彼は前途ある青年だ”

4. If が though と同じ意味に用ひられる場合。

If he is old, he is strong.

“彼は老ひては居るが、丈夫なものだ”。

先づ以上の幾通りかの用法を、よく記憶してゐるならば if の譯し方には困らないと思ふ。

……to get on……“繁盛に赴く”意味である。

……he should earn……この should は must の少し意味の弱い言ひ方に用ひられる。

……the goodwill……好意；得意の意味。

……employer……使用者である。被使用人は employee.

……perform……仕遂げる。成就する。

……so as to……so that と同じく、結果又は目的を表す時に用ひられる。

例 so…as が consequence を言ひ表す場合。

He was so earnest in studying English as to be able to have a conversation smoothly with foreigners.

“彼は熱心に勉强したので、西洋人と上手に會話が出來るようになつた”。

so as が目的を言ひ表す場合。

He was earnest in studying English so as to be able to have a conversation smoothly with foreigners,

“彼は西洋人と上手に會話が出來る樣に英語を熱心

に勉强した”

……to be not afraid of……“怖れない”の意味であるが、此處では“いとはない”と譯す方が better であらう。

……to be paid for doing……“爲すことに對して拂はれる”が直譯であるが、此處では意譯して“月給だけの仕事”とした方が意味がはつきりする。

（譯文）

資本のない青年が商業界に手足を延ばそうと希ふならば、自分の受くる給料だけよりも、もつと多く仕事をするのを厭はない事を示す樣に彼の義務を遂行し、以つて使用者の好意をかち得ねばならぬ。

(2) The strongest incentive to constructive political and social work for an imaginative spirit lies not so much in the mere hope of escaping evils as in the opportunity for great adventures that their suppression will open to our race. (from H. G. Well's Cutline of History.)

此文も單語や idiom に就て、さほど六ケ敷いものはないのだが、いざ譯すとなるとかなり考へらされる

問題である。文法的によく考へて、誤なきを得てから後に、全體を統一ある譯文に書き下してみよう。

……incentive……adjective も noun も同じ形である形容詞となれば“刺擊する（何々）”と譯され、名詞となれば“刺擊物、動機、誘引”等の意味になる。此處では無論後者の場合に用ひられてゐる。

……to constructive political and social work……この場合に、この三つの adjectives は各々 work の形容として平等なものであるか、或はまた constructive だけは別なものであるか、文法的には一寸問題にならざるを得ない。即ち constructive work; politlcal work; and social work であるか constru tive (political and social work) であるかの問題である。そして grammatically に云へば、前者でも何等差支へないのであるが此形容詞の性質上如何しても後者の方を正しとせざるを得ない。political と social は work の adjective であり、constructive はその social and political work 全體の adjective である。玆に今一つ注意して置き度いのは、constructive が social and political と云ふ adjective を形容するのならば constructively と adverf

にせねばならぬことである。かくの如く、英文を譯する場合には、文法上の正確さと相俟つて、單語そのものの意味を明にし譯の全體を統一あらしめる樣注意せねばならぬ。

……for an imaginative spirit……種々に譯せるが此處では“想像力の富んだ人にとつて”と譯すのが適當であらう。

……not so much……as……屢々出て來る idiom である。“よりは寧ろ”と云ふ言ひ表し方の時に用ひられる。It is not so much B as A……B よりは寧ろA である……。

……evils……これも noun にも adjective にも同じ形で用ひられる。また副詞として次の如く用ひられる。

He speaks evil of Mr, so and so.

（彼は某君の事を惡く言ふ）

……for great adventures that の tnat 以下は、かなり注意を要する。their suppression の their は evils を受けるか adventures を受けるか。また open to our race 等も、かなり考へらされる文句である。their は前後の關係上、evils を受ける事が解る。即ち sppres-

sion ……鎮抑……と云ふ單語があるので、それが evils であることにきまる。

……open to……は"何々に對して開かれる；許される；餘地がある"等の場合に用ひられる。

This fact is open to question.

（この事實は疑の餘地がある）

The library is open to the public.

（この圖書館は公開である）

There are two ways open to him.

（彼に許される二つの道がある）

玆の場合では open to our race は、第三の意味にとつて"我々の競爭に許される" すなはち their suppression will open to our race は"我々が競ふて彼等（evils）を鎮抑しようとする"と意譯してよい。

（譯文）

想像力の豊富な人にとつて、構成的な政治又は社會事業に對する最も强い刺擊となるものは、害惡よりの逃避を單に希ふ事にあるのではなくて、寧ろ、我々が競ふて其等害惡を鎮抑しようとする大冒險へ機會づけられることに存するのである。

〔例題〕3. It is one of those great practical discoveries, which, once made, appears so obvious that the merit of making them seems less than it is. (Mill's Principle of political Economy.)

……It is one of……の of は among の意味。

Of all students Mr. A is the most dilligent.

（全生徒中君が一番勉强家だ）

……one made……when it is once made の略。

……so obvious that……"餘りに obvious 過ぎるので"と云ふ風に上から譯す方が"……する程そんなに obvious"と下から譯すよりも熟してゐる。

……the merit……効蹟である。making them の them は discoveries.

……seems less than it is……けだし本文中一番難關である。it は merit であるから、直譯すれば"それがあるよりも少く見へる"となるが、それでは如何にも不味い。それで"本來又は當然にあるよりは少く"の意味にとつて"實際よりも少く見做される"と譯した方が better である。less than に就ては他日稿を更めて書こう。

(譯文)

それは、一度造られると、餘り解り切つてゐるので發明の功績が實際よりも少く見做される程に、見へる之等實用的諸發明の中の一である。

The lack of opportunity is ever the excuse of a weak, vacillating mind. Oppotunities! Every life is full of them. Every lesson is school or college is an opportunity. Every examination is a chance in life. Every patient is an oppotunity Every news paper article is an oppotunity. Every client is an oppotunity. Every sermon is an oppotunity. Every business tranaction is an oppotunity, -an oppotunity, -an oppotunity to be honest, - an oppotunity to make friends. Every proof of confidence in you is a great oppotunity. ……from Pushing to the front……

第十一回練習問題解說

時事和文英譯

(1) Although far from being satisfactory in carrying out all of its so-called three great policies, the new ministry should be considered as having done its utmost under the circumstances in curtailing administrative expenditures, and, as for the question of the extension of franchisement, it must be considered a cause for congratulation that the Govenment has done what it should have done in order to meet the people's demand.

(註)

構文の上には別に難點も無い樣であるが、然し必要な idiom もあれば、tense の關係で多少考へなければならない點もある。殊に終の方は不定代名詞 it の用法が、かなり複雜であるから、よく注意すべきである この種の複雜な文章を譯する時には、何よりも名詞、代名詞の格を定め、殊に代名詞はそれが何の代名詞で

あるかを明にせねばならぬ。subjectと object を取り違へたり、it……that の it を、普通の不定代名詞の樣に考へたりすると、複雜な文章だけに全體の見當が全く滅茶々々に破壞されて終ふ。いつも云ふことであるが騷がず落付いて幾度も讀み下して見るのがよい。古の人が"讀書百遍意自ら通ず"と喝破したそうであるがたしかに味ふべき眞理であらねばならぬ。

◉Although……though と同じく"…と雖も"と下から返つて譯される。

Although I say it who should not.

"言ふべきでない私が、それを言ひますけれど"…意譯すれば"私が斯ふ申し上げると變ですけど"となる

また even if と同じく"たとへ……ても"と云ふ風に譯されることもある。

Although he might be killed, he is the last man to beg his enemy's mercy.

"たとへ彼は殺されことありとても、敵の恩惠を乞ふ樣には見へない"

◉far from being satisfactry……"中々滿足とまでは行かない"の意味。この far from とよく似てゐて、

屢々間違へられるのは so far from である。so far from は"……どころではなく、却つて何々"と云ふ言ひ廻しの時に用られる。

例。So far from being successful in his business, he is always agonizingly anxious to recover his former estate.

"商賣に成功する所でなく、却つて每も以前の財產を回復しようと焦り悶へてゐる"

so far from も far from も共にその後には ing の形、即ち present participle が來る。

◉to carry out……"遂行する""貫徹する"と譯される。この to carry out と似通つてゐて意味の異るのは

(1) to carry on……"營む。續ける"等の意味。

he is carrying on a good business.

"彼は中々旨く商賣をやつてゐる"

(2) to carry over……"繰越す"の意味。

The 10 percent. of the net profits is carried over to next year's account.

"純益の一割は來年度合計に繰越される"

（3） to be carried off……"にしてやられる"の意味。

He was drowned, being carried off his lege by waves.

"彼は波に足を浚はれて溺死した"

◉its so-called……この it は後に來る new ministry の代名詞である。so-called は"所謂"の意味。

◉should be considered…この should は"ought to"と同じ意味の should である。

◉as having done……この as は"として"の as である。

I treated him as a true gentleman.

"私は彼は眞の紳士として特遇した'

この場合の as と同じ意味である。即ち"…爲したものと" 考へらるべき……"と譯す。

◉its utmost …utmost は adjective としては extreme と同じく"極度の、非常な"等と譯され、 noun としては"極度のと"の意味になる。

I will exert myself to the utmost for recovering your honour.

"私は貴方の名譽回復の爲に極力努力致します"

"Not forget me!"—this was the utmost this poor artist could say.

"忘れずにね"この哀れな美術家は、やつとこれだけ言ひ得た'

◉under the circumstances……circumstance は（1）事柄、始末（2）境遇，生計（3）事情，と略似通つてゐるが多少異る意味に用ひられる。この場合では無論文意の上から云つて第三の場合、即ち"事情"の意味に用ひられてゐるのは明である。

under the circumstances は直譯すれば"かかる事情の許に於て"となる。けれど its utmost と參照して"許さるる限りの最善"と云ふ風に意譯してもよい。この under the cirumstances とよく間違へる idion は under these circumstances である。under these circumstances は"斯ふ云ふ事情なのだから"と云ふ意味である。

It is never unreasonable that he should be very angry under these circumstances.

"事情が斯ふ云ふ譯だから、彼が非常に怒つてゐるのも決して無理じやないよ"

◉curtail……"切り詰める。節減する"の意味。

◉administrative expenditure……administrative は"管理の、行政の"と云ふ形容詞である。名詞は administration ; administrater は"管理者" expenditure は"經費"である。序に記憶すべき單語は anmial expenditure……歲出 ; Revenue and expenditure…收支 ; 等であらう。

◉as for ……about, in regard to などと同じく"に就ては ; にかけては"の意味である。

as far の次には名詞、代名詞の object が來ることに注意されたい。例へば

As for me, I have nothing to grumble about.

"私などは、何もぶつぶつ云ふ事ありません"

◉extension ……"擴張""延長"などの意味。この extension の adjective の形は extensive…廣き…であるが、political economy の術語として"集約農業…intensive cultivation"に對し"疎放農業……extensive cultivation"と云ふ場合に用ひられる。

◉franchisement……franchise と等しい。第一の意味は privilege と同じく"特權"であるが、それが轉じて"

選擧權"の意味に用ひられる樣になつた。

◉この it は何を指すか。一寸讀み下すと前の it と同樣に new ministry のことだとも見へるが、よく前後の意味を吟味すれば、それが that the Government 以下を受ける先行代名詞であることが解る。

◉a cause for congratulation…この cause なども注意して、よく記憶して置くべき字であらう。

第一の意味は"原因 ; 理由"などで、他に"大義、公事、訴訟等の意味もある。idiomatic な用法としては次の諸例を憶へていたゞき度い。

a…in the cause of…for the sake of と同じく"の爲に"と用ひられた場合。

He did not hesitate to sacrifice his own life in the cause of humanity.

"彼は人道の爲には己の生命を犧牲にするを辭せざりき"。

b…cause to ; cause for…ought to ; may well 等と同じく"するが當然"と云ふ意味にも用ひられる。

Being rescued from the Eternal Perdition, we have cause to thank god for the redemption of the Cross

of Jesus Christ.

"永遠の亡びより救ひ出だされしとなれば、我等キリスト イエスの十字架の贖の故に神に感謝するは當然なり"

c…cause……had と同じ意味に用ひられる場合、即ち"…何々せしむ'となる。

I caused my watch to be repaired=I had my wach repaired.

この場合に注意せねばならんのは I had の方は object の後に直ぐ past participle が來るのであるが I caused の方は必ず passive infinitive が續くとである

◉congratulation…"祝賀"

◉what…sentense の中にある what は大抵の場合 the thing which の意味である。

◉what の次の it が the new minisry なのは明である。

◉should have done…"爲すべきであつたと"の意味である。

◉in order to…in favour of と同じく"の爲に"の意味の idiom。

◉to meet…"逢ふ'と云ふ意味に用ひられるのが普通であるが、此文の如き場合には"應ずる。叶ふ'等の意味 ある。

(譯文)

その所謂三大政綱の全部の遂行に至つては、未だ遽に滿足しがたいとは云へ、新內閣は行政經費の節減に於て事情の許す限りの最善をつくしたと認めらるべく若し夫れ選擧權擴張の問題に至つては、政府が國民の要求に沿はんが爲に爲さざるべからざりしとを爲したるとは、當然感謝さるべきである。

(2) Candidly speaking Japanese national career has been too much a matter of luck in the past, and lest she become a spoiled child among the world powers, Heavenmust have thought it fit to remind our nation of the difficult path that lies before it in order to become truely great, not by the play of mere chance, but through the mdefatigable efforts of each and all subjects of the Eempire.

本文も別に之と云つて難解な箇所はないが、全體として言ひ廻し其他に、かなり注目すべき點もあり試驗

問題としては最適のものであらうと思はれる。

◉candidly……candid……腹藏のない；卒直…なと云ふ adjective の副詞となつたもの。

He is candid with all of his acquaintances

"彼は總ての知人に對して卒直に應對する'

◉speaking……これは gerund が subjunctive wood の意味に用ひられた例である。

generally speaking young peaple in the present time cannot be free from the vanity.

"一般的に云へば、現時の青年は虚榮から解放されることが出來ない"

◉a matter of luck……"僥倖の問題"

◉lest……lest は should と相應じて"…せざらんが爲め"となるのが普通であるが、しばしば本文に於ける如く should を省いても用ひられる。

◉spoil……第一の意味は"掠奪する、ぶちこはす"であるが、轉じて子供などを"甘やかして增長させる"と云ふ意味にも用ひられる。本文は此第二の意味に spoil が用ひられてゐる例である。

◉the world powers……世界の諸强國。

◉ thought it fit to remind……けだし本文に於て最も難解とされる箇所であらう。thought it it の it が何を指すか。英文に親しんでゐる人に取つては、さまで問題ではないにしても、たゞ文法をのみ導き手として勉强してゐる人には可成の難所である。斯る時には即ち it が如何も前の名詞なり後の名詞なりを、はつきりと指してゐないで用ひられてゐる場合には it は必ず that 以下の clause か、さなくば infinitive を受けてゐる筈である。この it を我々は代名詞、即ち名詞の代りだと思ひ込んで英語を敎はつてゐるので、それが noun でなく infinitive なり clause なりを指すとなると初學者には却々了得出來ない筈である。よく注意して讀む必要がある。

そこで此處の it は何かと云ふに之と云つて受けるべき noun はない。だから當然 it の次に來る infintive の to remind か、またはずつと後の方にある that lies の that の外ない。然し that 以下は subject がないので clause ではないから無論 it は之を受けてゐないに決まつてゐる。だから自ら to remind なる infinitive を受ける外ないことが解る。然しこうした解

り方は全然文法的であつて、こう明瞭に文法の關係の解らない場合も英文には往々珍らしくない。だから要は英文を讀み馴れて it が如何な風に clause なり infinitive なりを受けるかに通曉するのが第一である。

◉ to remind……"思ひ出させる""心付かせる' などの意味があるが、本文では前後の關係上後の方の意味である。この remindは 次の樣な形に用ひられるのを常とする。

I gave him a suggestion to remind him of his promise.

'私は彼に約束を思ひ出させるべく諷示した'

それで本文に於ても to remind の direct object は our nation で indirect object は diflicult way である

◉that lies before it の it を早計に考へて to become なる infinitive の先行語だなどと考へては大變。この to は in order の方につくのであつて to become ではない。文法的に云へば in order に infinitive の to become が續くのではなく in order to に become の root from が續くのである。此處の it は前後の文章の關係上 our nation である。何故 Japan でないかと

云へば Japan は前にも在る通り female gender なる she で受くべきだからである。

◉by the play of…play も多義語の一であつて多くの譯語が付せられるのであるが the play of の前に前置詞がある用法の場合には普通"…の作用"と云ふ意味に用ひられる。此處も"單なる機會の作用によつて云々"と譯すのである。

◉indefatigable… fatigue…疲勞…の反對。即ち"不撓不屈"の意味。

◉each and all……each は"各自めいめい"の意味だから each and all は"全體を爲す各自"の意味となる each だけは individuals を切り離して考へ all は總括して考へるのである。

譯文

公平に言へば日本の國家の經歷は過去に於て餘りに僥倖の問題であり過ぎた。(僥倖すぎたと意譯しても宜しい)。それで日本が世界の諸强國の間に在つて、甘へつ子となつては惡いから、天は我々國民が單なるチャンスの作用に因るのでなく、帝國の各自全體の民の不撓不屈の努力もて偉大とならんが爲に、その前に横ば

る困難な道を我國民に心付かせるのを適當だと考へたのに違ひない。

時事和文英譯

（1） 最近の調査によれば、十一月中の主要都市十三に於ける日用品の卸賣値段は十月よりも騰貴してゐる。即ち十一月の平均指數は、一昨年までの最近三年間の平均を100とした計算に於て、107.2 を示してゐる。

（註） 構文の上に難かしい所はないにしても、餘り言ひ狎れない言ひ廻しがあるので多少間誤付ざるを得ないとと思ふ。こんな言ひ方は時事和文英譯の練習などには最も必要なとなのであるが、餘り夫れが日常の事に亘り過ぎてゐるので屢々觀過され易い。

◉最近の調査……最近は the latest ; resent などが普通である。resent は普通の形容詞だから a resent と云つてよいが、latest は late の最上級だから the latest としなければならぬ。調査は investigation, examination などが用ひられる。

◉によれば……according to ; judging from などを用

ひて譯する。

◉主要都市……the important cities と直譯しても差支へないが、こんな場合には leading を用ひるのを常とする。leading は"重立つた；屈指の"などと譯さるべき形容詞である。

例 本日發行の朝日新聞は其社說が安寧秩序を害すると云ふ廉で發賣禁止になつた。

Today's Asahi Shimbum has been prohibited to be sold as the leadig article was considered to disturb the public peace.

かく社說などと云ふ場合にも leading は用ひられる本文でも leading cities と譯すのが better である。

◉日用品……articles of daily necessity 又は articles of everday use を用ひる。たゞ daily necessaries だけでもよい。時文としては articles of……よりもたゞ daily necessaries の方が better であらう。

◉卸賣……wholesale である。卸賣値段は a wholesale price を用ひる。

◉よりも騰貴……to behigher than を用ひる。比較せずたゞ單に騰貴したと云ふ場合には to advance ; to

rise 等の verd を用ひる。

物價が非常に騰貴した。

Prices of every goods has risen very high in price.

◉即ち……that is と云ふ conjanctive phrase を用ひるのが常である。然し前段の sentence を切らずに後段をば present participle の形にして surbodinative sentence とする事も出來る。その何れが良いかは文章によつて異るが、出來るならば複文章とせずに書いた方が英文としては better であらう。

◉十一月の平均指數…平均は average；指數は index number である。"十一月の"の"の'を何と譯すか the average index number of とするか、又は the average index number for とするか。かなり決定し難いのであるが of は"について"の意味。for は"に對する"の意味。此處では十一月に對する指數なのだから矢張り for を用ひる方が正しい。然し時文などには屢々 of と用ひられるともあらうが、正確に云へば for である。

◉一昨年までの最近三年間…最近三年間は the latest three years 出來ぬともないが、一昨年までとある以

上、特に最近と云はなくてもよいと思ふ。たゞ three years で充分である。

"一昨年まで"は untill the year before last ye r. では甚だ不味い。"一昨年まで"は"一昨年を限りの三年間"又は"一昨年に終る三年間"の意味だから the three years ending the year before last year; year があまり耳ざはりに成るので the year before last year を西暦で 1923 と書けば最もよい。

◉また問題になるのは"三年間の""の"を何と譯すかである。然し三年間と云へば during three years となるので、其上に the average for during 等とは書けない。たゞ during だけで澤山である。

◉平均を百とした計算に於て……日本文としては之で立派に文章に成つてゐるのであるが、いざ英文に直すとなると却々やさしくない。英文では此場合には"平均に對する 100 點と云ふ基礎（標準）の上での計算"と云ふ風に譯さねばならぬ。即ち下の如く書かねばならぬ。

to be calculated on the basis of 100 points for the average.

これなどはよく暗誦して、斯る類の文章が來れば自然にすらすらと出て來る樣にまで成り度い。

（譯文）

According to the latest investigation, the wholesale prices of daily necessaries in 13 leading cities in Nobember higher than in October, the average indix number for Nobember having been 107.2 points, calculated on the basis of 100 points for theaverage durring the three years ending 1923。

（2） ソビエット政府の戰事委員なるレオントロツキイが投獄されたの、追放されたの亡命したの、病危篤であるの或はまた暗殺されたのと云ふ噂が歴々國外に擴がつてゐるが、實は彼は氣管支カタルを自分の部屋に養靜してゐるとが解つた。

（註） "…されたの；されたの"と重なつてゐるので如何なに譯そうかと初ての方は心配されるかも知れないが少しも恐れるに及ばない。簡單に英語書き下せばよいのである。

◉ソビエットの戰事委員……Soviet Commissioner of war と Trotsky の appostion として書く。

◉投獄された……has been imprisoned である。

◉追放された……to be exiled。exile はよく間違つて to be exciled と書かれるから spell に御注意。

◉亡命した……have fled を用ひる。亡命者は refugee である。fled の rootform は flee。

◉病危篤……to be reriously ill ; to be critically ill などを用ひる。

◉暗殺された……has been assassinated。暗殺者は assassin である。

例 明治の初年時分は暗殺者と云へば愛國の志士であつたが、近頃は暗殺者の相場が大分下つた觀がある

In the early years of Meiji, the assassins might have been the patriots, but it seems at the present time that the value of them has been very degaded.

◉噂……rumour ; talk 等。rumour は風說、流言などの意味で、talk は話の種；話柄などの意味である。death とか ill の場合には rumour が普通に用ひられる。

"彼が死んだと云ふ噂がある"

Rumour has it that he is dead.

◉歴々國外にひるまる…to be flying abroad と譯す。
◉實は……to tell the truth; truly speaking 等を用ひて譯してよいが、略したつて差支へない。殊に時文には一々 to tell the truth 等と書くと、たどたどしくなつて却つていけないかと思はれる。
◉氣管支カタル……a bronchial affection。
靜養してゐる……to beresting でよい。けれど"…病を養ひながら休んでゐる"と書けば英文として better である。意味がはつきりするからである。

（譯文）

While rumours are flying abroad that Leou Trostky, Soviet Commissioner of war, is imprisoned, exiled, has fled the country, is critically ill, and has been assassinated, it has come known that he is resting in his own apartment, nursing a bronchial affection.

× × ×

× ×

第十二回練習問題解說

時事英文和譯

(1) There is a constant increase in the variety and the importance of the services which a giant company can render to innumerable customers; few of whom could find any tolerable substitute for its assistance, unless from the appearance on the scene of a rival company of similer scope and strength.

（註）別に六ケ敷い idiom もないが單語と云ひ程度と云ひ丁度豫備試驗級のものなので選んだ。此文に出て居る單語位は無論辭書などひかずとも解つてゐられとと思ふが以下多少の註釋を加へる事とする。
◎constant……普通は"不動の"と云ふ意味か"不斷の"と云ふ意味の形容詞である。その何れを適用すべきかは其折々でないと解らない。本文の如きは明に第二の意味すなはち continuous と同義である。第一の意義からして constant と云ふ noun が生ずる。之は mathematics や statistic の用語であつて"定數""不動數"

などと譯される。

◎increasc …… これは普通に屢々用ひられてゐる言葉であるから今更ら之に就て云ふ必要もないと思ふがたゞ一つ注意して置き度いのは increase は其の accent の場所によつて verb ともなり noun とも成るとである。すなはち increase′ と後の方に accent があれば、vorb として "增大する；進步する；繁榮する" などの意味になり in′crease と前の方にある場合には "增進,繁殖" などと云ふ noun に用ひられるのである。

◎variety……變化；多樣；種類などと譯される名詞

He has the variety of knowledges concerning social sicences.

…彼は社會科學についての多方面の學識を持つてゐる

◎importance……adjective は important で "重要な" の意味。impotance は "重大さ" と譯してよい。

◎services …… この字も屢々用ひられてゐるので其意味など明確に理解しない場合が多い。序だから云つて置き度いが、諸君が斯る問題なり其他の English の本を讀む時には、なるべく辭書を叮嚀にしらべて一の單語も忽にしない方針をとられる事は云ふまでもない。

就中諸君の注意していたゞき度いのは service の如く餘りに平凡に用ひられてゐる字に就てゞある。こんな字は一々字引も引かずに大抵解つた樣な氣に成り易いものだ。それでゐていざ試驗の問題の中に在ると云ふ風の場合になると、かなり惑はざるを得ない事が少くない。殊に此弊はそろそろ英書が讀め出して、辭引の御厄介になる度數が少くなりかける時に多い。早合點して終つて、こつこつ辭引など引くのが嫌になり初める頃である。こんな時が一般に英語の修得にも危險な時である。矢張り或程度までは、糞眞面目に辭書と首つびきする必要があるのである。

a, service が普道の意味に用ひられる時。すなはち "奉公；職務；公務；" など。

この場合の servie の idiomatic な用法を少し書いて見るならば

(1) I have seen service in the naval army through 20 years.

私は二十年間海軍に勤務した。

(2) This vagbond weared a dirty coat, which seemed to have seen service through many years.

この無賴漢は長年御奉公したらしい汚いコートを纏ふた。

(3) Will you do me a service?

"お願ひいたし度いのですが"

(4) You have done a great service for me.

"本當に御世話樣でした'

◎giant……巨大な、大力の、等の形容詞。

◎company……companyはcomrade 等と同じく"仲間'の意味である。それが轉じて"會社"の意味に用ひられる。略字では Co. であるが"何々會社"と云ふ場合、例へば Maccmillian 會社と云ふには Maccmillian & Co. と書く。Maccmillian and company の略である。

◎render……"演ずる"とか"解釋する"とか種々の意味に用ひられるが、普通 do と同じく"爲す'と譯す。

◎innumerable……"無數の;多くの"形容詞。

◎customers……"得意客"又は"取引先"の意味であるが、日本語で"困つた奴だ"と云ふ時に"困つたお客さんだな'と云ふのと全く同じ用方が英語にもある。

He is queer customer……"彼奴は變な奴だ"の意味である。

◎few……元來は little と同じく"僅かな"の意味の adjective である。だからこれの反對は many"多く"である。この few に indefinite article の a がつくと意味が變る。a few は"僅か"ではなくて"多少;少しは;二三"等の意味である。

a few days ago I met with him in the Hibiya park.

記憶すべきは idiomatic uses 下の諸例に於けるものであらう。

(1) There are few men in this lot of the city who do not know the relation between he and she. ……"町の此界隈で、彼れと彼女との間の關係を知らない人は殆どない。"……すなはち此場合では few は had y, scarcely 等と同じ意味に用ひられる。

(2) There seems to be a few men in this lot of the city who do not know the relation between he and she……"町の此界隅で、彼と彼女との間の關係を知らない者も少しはあるらしい。……すなはち此場合では some men do not know about the fact の意味

である。

(3) Not a few students in this university sincerly respond to the gild-socialism.……"この大學内の少なからぬ學生が眞面目にギルド社會主義に共鳴してゐる"……Not a few は a good many と同じ意味に用ひられてゐる。

(4) His dearest wife being sick and in the hospital, he visits faithfully her there every few days,……"彼の最愛の妻が病氣で入院してゐるので、彼は二三日毎に忠實に見舞ひに行く"

(5) They were the few who did confess their faith in Lord Jesus Christ.……彼等が、主イエスキリストにある彼等の信仰を告白した小數者であつた"…すなはち the few は the few men の意味である。

◎few of whom……whom は前にある noun 即ち customers を受けてゐる。few of whom を"その中の僅かの者"がと云ふ風に譯すと誤である。この few はむしろ副詞に用ひられて could find を modify せねばならぬ。

◎any……"何等か"の意味。any と some の用法の

區別に就ても一言し度いのであるが、今回はやめて置く。たゞ any を"或る"と云ふ意味にしか譯す事を知らない爲め、譯文として至極下手いのが出來る事があるのは注意すべきであらう。

◎tolerable……"かなりの;辛抱出來る"などと譯させる adjective である。この反對は intolerable である。

◎substitute……"代用物"の意味。substitution は"代用"と云ふ abstract noun であるから、兩者を混同しない樣に注意され度い。

◎for its assistance の it は a giant conpany. assistance は"助力;援助"等の意味のnoun.

◎uuless …… unless も用ひられる場合々々によつて種々の意味になるが、最も普通なのは but for… と同じ意味に用ひられる時である。この場合には unless は subjunctive に用ひられてゐる。

例 But for his kindness, I could not but escape from the country. = Unless his kindness, I could not help escaping from the country……

"彼の親切無かりせば、余は國を脱するの外なかりしならん"…… すなはち此場合では unless は"無か

りせば”と譯す。然し unless は but と同じく“…の外”の意味にも用ひられる。本文の unless は意味に於ては But for と同じだが、譯す時には“…の外”の方がよい。

◎from the appearance,…… この from は“…による”の意味。すなはち“根源”を示す from である。だから unless from the appearence は“…現れるによるの外”と譯す。

◎on the scene は副詞句である。of a rival company は the appearence につゞくのである。

◎similiar scape and strength……scape は“範圍”の意味に普通用ひられるが此處では“目的”の意味である。即ち“同じ目的及び勢力”と譯す。

（譯文）

大會社が無數の取引先に對して爲す所の奉仕の種類及び重要さは絶へず增加する。取引する人々は、同じ目的、同じ力の競爭會社が其の場に現れ出づることによるの外は、その大會社の助けに代へるべき何等かのかなり良い代用物を殆ど見出し得ないであらう。

（2） Any individual way decide that he will con ume

a little less in the present or the immedi te future in order that he may have a little more to consume in the distant future. The way he does this is to save and invest, or else to turn aside, as may have been done in very simple states of society, from the work of gathering consumers goods' in order to apply himself to the work of making tools.

（註） この文なども單語はやさしいけれど、いざ譯すとなるとかなり考へらされる方の文である。殊によく出て來る idiom もあるので讀者諸君は以下に書こうとする譯註を見ずに自分で譯して見らるるがよい。この程度のものがかなり旨く片付け得る樣になれば先づ解譯の力はかなり出來たものと思ふて差支へない。

◎any individuals …… この any を individual につけて“或る人々は”と書き下すと變な文章になる。だから此樣な場合には any……may be（又は其他の verb）と照らし合せて There may be individuals who……”の意味に譯すがよい。すなはち“……する人もあり得る”と譯すのである。

◎decide……決心する。決定する。の意味

◎a little less は"幾らか。稍々"の意味である。a little less は普通には比較級として用ひられる。

His capital is a little less than a million.

"彼の資本は百萬圓には少々足りない"

本文では idiom がなくて、たゞ a little less と用ひられてゐるのだが然しその意味は矢張り a little than と等しい。すなはち此處では、そうでなかつたら消費するだろう額よりも、少し許り少く消費する"と云ふ意味が含まれてゐる。けれど譯す時には、たゞ"少し少く消費する"とするか或は"少し消費を節する"と云ふ風に書いてもよい。

◎immediate……"直接の；即時の"等と云ふ形容詞。immediate future は"近き將來"であるが"少時してから直ぐに"と副詞の樣に譯して consume にかけてもよい。すなはち"現在に於て、或はまた少時してすぐに消費する"。

◎in order that……may……in order that だけでも、that…may だけでも同じ意味。"何々せんが爲に"と將來に對する準備又は原因を示す語法である。

◎a little more……之も a little less と同じく、本來から云へば a little more than となるのであるが、此處では"そうでない場合に消費するよりも、も少し多く"の意命である。

◎in the distant future……the immediate future に對した言葉であつて"遠き將來"と云ふ noun だ。然し此場合にも譯文としては to consume の adverbial noun として"程へだててから消費する"と譯す方が better である。譯文を書く時に、自分に自信のない怪し氣な箇所を、出鱈目の意譯で以つて償はんとするのは勿論惡いけれど、出題者が一見して譯者が決してそんな誤間かしをしてゐるのではないと看取出來る樣な場合、すなはち本文の樣に單語はやさしいし、意味にも別に妙なひつかかり等のない時には、むしろなるべく流暢に書くがよい。狡巧な意譯文よりも、朴吶な意譯文の方が優るけれど、それよりもつとよいのは流暢な正譯文である。出題者に憚かる餘り、實に融通の利かない、ギゴチない直譯文を書くのは中學の二三年程度ならいざ知らず、もつと上級の英譯としては感心した話ではないと思ふ、例へば any indivibuals と云へば、何が何でも"或る個人が"と云ふ風な譯文は本當の

意味の譯文ではない。譯文とは日本文に譯すのであつて、日本文にもあるまじき書き方などしたのでは眞の譯文ではないと申さねばならぬ。

◎the way he does this is to save ……玆の邊が譯に馴れてゐない人の間誤付く所だろうと察する。をdo たゞ auxiliary verb としか考へてない人、及び infinitive の用法に馴れてゐない人には蓋し難所の最なるものであらう。くれぐれも云ふ如く、滅多に出ても來ない idiom を暗記するよりも譯のつけ方に馴れなければならんとは此點である。此處の does は auxiliary verb ではなくて普通の verb である。その object は this である。the way he does this は、tte wag by means of which he does this の意味である。然らば the way ……is の complement はと云へば、云ふまでもなく to save と云ふ infinitive である。to は save amd interest にかかる許りではなく、or else to turnの to turn と共に the way の補足語となるのである。

◎else……else には二つの重大な意味がある。この用方は記憶されるが良い。

(1) else が other の意味に用ひられる場合。この

時には疑問代名詞である what; where 等に伴はれるか或はまた anybody; something 等の不定代名詞に伴はれるかの二用法がある。

例。Have you anything else tell me?

"君はこの他に何か言ふ事があるか"

Who else is coming?

"他に誰が來るのか"

(2) else が接續詞として用ひられる場合。この時には or else となる事と、たゞ else の時とがある。共に"さなくば"の意味である。

例。Be dilligent, or else you will fail in the entrance examination

"勉强しないか、そうでないと入學試驗に失敗するぞ"

◎to turn aside……之も idiom の一であつて to turn と續くのが普通である。

例。He has turned aside from the real way of worsghip of God.

"彼は神を禮拜する眞の道から外れた"

◎from the work の from は to turn aside に續くので

ある。

◎Consumers' goods……"消費者の財物"と直譯されるけれど、之は economics の術語であつて producers' goods に對する言葉である。producers' goods とは、Producer' goods include all tools, machines, buildings, appliances, and other forms of equipment which are nsed for the production of other goods と定義されてゐる。これに對して Consumers' goods は Consumers' goods, on the other hand, include only such goods as are used for direct eijoyment rather than for the purpose of producing other goods.(共に Harvard Universitg の professor である Thomas Nixon Carver の說による)と定義される。

◎to apply oneself to……"勉强する，專心する"等の意味の idiom である。

例。He applies himself to the study for the preparation in the entrauce examivation.

"彼は入學試驗準備の勉强に專心してゐる'

(譯文)

程遠い將來に於て少しでも多く消費せんがために、

現在或は少時して直ぐには少し消費を控へようと決心する人はあり得る。是をなす道は、貯蓄するか投資するか、そうでなければ、非常に單純な社會狀態に於て行はれただろうと思はれる樣に、道具を作る仕事に專心せんが爲に消費の爲の財物の蒐集の仕事から離れることである。

時事和文英譯

(1) 私が長い無明の闇、罪の惱みから救はれ、父なる神の深い愛に感謝の涙を注ぎながら十字架の許にひれふしてから丁度滿三年經ちました。何と云ふ速い月日の步みでせう。全くつひ先頃の樣に感じられますのに。

(註)

少し毛色の變たつ文章を譯して見るのも興味があるし、また力も附くだろうと考へたので此文を選んだ。單語は至極簡單であるが、言ひ廻しにはかなり六ケ敷い所もある樣だ。まあ練習問題としては少し上手の方の部であらうと思はれるから、試みに作つてみて却々出來なくとも何等悲觀するに及ばない。

◎"長い無明の闇"日本語としては至極深遠な言葉で

ある佛教の經典の中の言葉の一であるが英語では非常に簡單である。西洋ではこの無明と云ふ樣な餘音嫋々とでも云ふべき言葉がないからだ。これは元來が佛語であるけれど讃美歌(耶蘇教の)などにも用ひられてゐる。何と譯すかと云へば long dark illusion でもよいが dark illusion for long time とする the lasting dark illusion とすれば "長く續いて無明の闇" と云ふ意味がはつきりする。

"無明の闇もあけにけり。いざ故郷に歸り行かん"

The dark illusion has disappeared. Now I will return to my native place.

◎"罪の惱み"……"惱み"の譯語は、その惱みの種類によつて"pain, sufferiug"(病氣の惱み)。"distress"(困厄) "trouble; qualm" (煩悶) など種々あるが此處では worry, qualm 又は annoyance 等が適當であらう。"罪の" はwith sin でよい。

◎"救はれ"……これも用ひられる場合に從つて種々の譯語がある。だから良く氣をつけて見當外れの譯語など用ひない樣にせねばならん。

a. „危險などより救ふ,‘と云ふ場合。

"ワシントンは溺れんとするこの憐れな少年を救はんと川の中に飛び込んだ',。

Washington jumped into the river to rescue the poor boy from drowning.

b. "人の命を救ふなどと云ふ場合"。

"彼は生涯を通じて、自殺せんとする多くの若い男女を救ふた"

He saveb many young men amd women who were going to commit suicide throngh his lifetime.

c. "困難又は痛苦から救ふ"と云ふ場合。

"一服の頓服藥は今にも死ぬかの如き苦しみから彼を救つた"。

A potion of medicine released him from the deadly pain.

d. (苦界から、罪の淵から、救ひ出す)等の場合。

"彼は自分の命をかけても、彼女を墮落の淵から救ひ出すのだと誓つた"。

He has sworn that he would redeem her from the depth of ruin at the risk of his own life.

e. "捉はれたる者を救ふ"意味の場合。

"憐れなる黒人達を奴隷のくびきより救ひ得ん事が彼の生涯の願であつた"。

It was the hope through his life that he could deliver those poor negroes from the bondage as slaves.

以上で大略は了解していたゞいた事と思ふ。本文では deliver ; save ; redeem等がよい。deliverance, redemption ; salvation は之等動詞の名詞となつたのであるが共に religions meaning を持つ言葉である。

◎"父なる神"……God as our father と直譯出來るがBible には god our father と普通に用ひられてゐる。

◎"深い愛"……"深い" はdeep ; profound 等がよい。"愛"は love ; affection ; 等が普通であるが "神の愛" と云ふ時には divine love と云ふ。一寸序だから注意して置き度いと思ふが Bible の中には"愛"と譯されてゐる字に charity と云ふ英語が用ひられてゐる事が屢々ある。有名なコリント前書十三章の St. Paul 愛の讃歌"たとへ我れ諸の人の言、及び天使の言葉を語るとも若し愛なくば鳴る鐘や、ひゞく鈸の如し……"の大文章は Though I speak with the tongnes of men and of angels, and have not charity, I am become as sounding

brass, or as tinkling cymbal と英文には書かれる。

◎"感謝の涙を注ぐ"……to shed tears of thanks.

◎"ひれふす"……これにも種々な譯し方があるが、最も面白いと思はれるのは"十字架の根もとに接吻する"と云ふ云ひ方である。すなはち to kiss the roor of the crossである。また文字通りに"十字架の下に平伏する"と書くならば to prostrate oneself を用ひる。どちらも宗教的な文章などに用ひられる言葉である。

◎"滿三年"……滿は full である。"斯は滿五歳である"は he is full five years old と書けばよい。若し "丁度滿五年"と云はふとするには to a day なる副詞句を句ひる。"彼が洗禮を受けてから丁度五年になる"

例。It was five years ago to a day that he was baptized.

◎"經つ"……to elapse が用ひられるが、it is と現在の be 動詞を用ひてもよい。

◎'月日の歩み"……種々に譯し得るであらうが、此處では最も普通な用法である the flight of time を用ひる。速いは swift を用ひる。

◎"つひ"……only ; just などが普通である。例へば"つい先頃彼と圖書館で逢ひました"を譯せば。

"I met him only the other day in the library"
◎"近頃"は recently である。"全く近頃"は qiute recently でよい。
◎"感じられる"……之は feel ; be sensitive to などの譯語があるが、此處では寧ろ"思はれる"の方が、bette-ではないかと思ふ。すなはち it seems to を用ひて譯した方がよい。日本語では"感じる"も"思はれる"も殆んど同じ意味であるが英語の feel は 觸れる"感ずる"などの日本語に相當する sensitive feeling を云ふのであるから此場合には適當な言葉でない。
◎"のに"……though ; in spite of (……に關はらず) の意味もあるし、また subjunctive は語法の時に"……のに"と譯される事がある。例へば"君の云ふ通りにすればよかつたのに"を譯せば。
'It would have been well if I had done as you told me."
となる。
本文ではwhileを用ひたが意味が輕くてよいと思ふ。
(譯文)
It is full three years to a day since I was delivered from the long dark illusion, the qualm of sin and kissed the root of the cross, shedding tears of thanks for the profound divine love of God our father. How swift is the flight of time ; while it seems me as if that had been only quite of late.

第十三回練習問題解說

—誌上模擬試驗—

英文和譯批判

問　題

(1) There can be little question that the attainment of a federation of all humanity, together with a sufficient measure of social justice'to ensure health, education, and a rough equaity of opportunity to most of the children born into the world, would mean such a release and increase of human energy as to open a new phase in human history.

—概　評—

概して云へば本題に就ての解答の成績は割合に良好であつたと言ひ得る。少し文章が混み入つてゐた爲か隨分譯文の書きこなし方が苦心の種らしく見受けられたが、大體に於て非常に手際よく書かれてあつた。以

下多くの答案の陷り易かつた難所を指摘して註を加へ最後に最もよく出來た答案二三篇について批評して見たいと思ふ。

There can be little question……このexpressionの如き、それこそ there can be little question で殆ど問題に成りそうに思へないのであるが、それでも可成多くの人々が誤に陷つてゐた。little と a little の區別の明かに理解されてないのが十幾篇もあつた。すなはち……は少しは問題たり得る"と書いてあるものが多かつた。また little question を"小さな疑問"とか"小々の困難とか" 譯してゐる向も少くなかつた。然し there can be little question that ……は……の事は殆ど疑ふ餘地がない"と云ふ意味である。little は"殆ど……ない"と云ふ negative meaning を含むのであつて殊に can, may 等と一緒に用ひられてゐる場合には決して名詞の形容詞に用ひられはしない。また question もたゞ"疑問"と云ふ名詞よりも idiomatic に用ひられる事の方が多いから、よく注意して研究してほしい。

次に多くの答案の陷つてゐた困難は the attainment of a federation と together with a sufficient measure

と to ensure 以下との連絡であつたらしい。或答案は to ensure 以下を、たゞ sufficient measure にのみつけて the attainment of a federation だけを孤立させてゐるものもあつた。すなはち"健康を保證する爲の充分な社會正義と共に全人類の聯合を得る事は……"と云ふ風の譯である。また或答案は"社會正義を打つて一丸と爲す全人類の團結への到達"と云ふ樣に、with a sufficient measure を a federation of all humanity の adverbial phrase の如く譯して居る答案もあつた。概して云へば多くの答案は此處の文章の關係に正確な理解を持つてゐないらしく見受けられた。中々巧な文章のあやによつて意味の朦朧たる點を補はんとする努力が見へて面白いには面白いが、試驗の答案としては如何かと思はれるのが多かつた。試驗委員たる人は專ら答案のあらを探すに精通してゐるのであるから、その人が本當に文意を理解してゐるのか如何かは、かなり容易に解るのである。だから答案は出來る丈け意味をはつきりせしめ、出來る丈け文章のあやに囚はれた意譯を避けねばならぬ。簡潔と正確とは受驗者諸氏のねらひ所でなくてはならぬ。

此處の a federation of humanity と a sufficient measure of social justice は同格の名詞であつて共に to ensure health 以下に續いてゐる。だから”……健康を保證する爲め、充分なる社會正義と並びて全人類の聯合を達成することは”云々と譯されるのが本當である。

a rough equality……roughは“不規則；荒々しき；疎暴…；概略の；”などと種々な意味を持つた形容詞であるが、玆の場合では“though it is rough……大約ながら”の意味に譯すのが一番よい。之を或る答案の如きは“粗暴なる子供”と children の adjective に譯してあつたり、“荒々しき平等”などと如何にも譯語の吟味の足りなさを暴露してゐたり、または“概略の平等”と書いた爲めに譯としては一應道理ながら、果して其人が“概略ながら兎に角平等を”と云ふ心持で書かれてゐる本文の趣旨を充分呑み込んでゐるのか如何かゞ不明であつたりする答案が少くなかつた。譯語の吟味は最も大切な事である。rough と云へば、たゞ“荒つぽき”だけの譯をしか心得て居ないと云ふ風では、試驗の際に非常に困却される事と思ふ。これは平生讀む時によく氣を付けて少し變つた意味に用ひら

as these cases.となる。

“心ある者は果して如何の感懷を抱くであらうか”……心ある者……a thoutghtful man ; mindful person などを用ひる。

……“果して如何の感懷を抱くであらうか”は種々に譯され得る。what it will be considered……; とも譯されるし How regretlablely will it be cousiderad…, とも譯される。玆に注意せねばならぬのは what は疑問代名詞であるから what it will be considered でよいが how は疑問副詞であるから how it will be considered では意味を爲さぬ。是非 howの次には regrettablely 又は sorrowfully などの副詞が來ねばならないそうでなくたゞ how 丈けでは“如何に考へられるか”は“考へ方”の程度の問題になつて、本文の眞の意味を傳へないのである。然るに殆ど大部分の答案が直譯に墮して悉くこの誤をやつてゐた。此際特に諸君の御注意を促す所以である。

“我社會狀態は恐るべき危險に瀕してゐる”この文の初頭に alas! を用ひてゐた答案は少なかつたが英文としては之を用ひる方が better である。